

男女共同参画社会に関する意識調査
報告書（概要版）

平成31年2月

那須塩原市

目次

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1.	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年代	2
(3)	結婚の状況	2
(4)	働き方	3
(5)	世帯構成	3
(6)	乳幼児・高齢者との同居	4
(7)	職業	4
2.	男女平等について	5
(1)	男女の地位の平等観	5
(2)	職場における男女平等	9
(3)	男は仕事、女は家庭という考え方	13
3.	結婚・家庭生活・子育て介護について	14
(1)	結婚・家庭・離婚についての考え	14
(2)	夫婦の役割分担	18
(3)	夫婦の役割分担の満足度	22
(4)	自分の子どもの育て方	22
(5)	父親の育児参加に対する考え	23
(6)	男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え	24
4.	女性と仕事について	25
(1)	女性が仕事を持つことについての考え	25
(1-1)	女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと	26
(1-2)	結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと	29
5.	男女の地域・社会参画について	32
(1)	地域・社会活動への参加状況	32
(1-1)	地域・社会活動に参加していない理由	33

6. 男女共同参画の視点からの防災について	34
(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応	34
7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	35
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度	35
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想	38
(3) 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと	41
8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて	42
(1) 配偶者・パートナー間の暴力	42
(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先	47
(2-1) 暴力について相談しなかった理由	48
(3) セクシャル・ハラスメントと感ずること	49
9. 男女共同参画を推進するための取組について	52
(1) 市が力を入れるべき取組	52
(2) 企業や職場での必要な取組	53
(3) 私たち自身が必要な取組	54
(4) 市の施策の認知度	55
(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度	56

I 調査の概要

1. 調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成29年に策定した「第3次那須塩原市男女共同参画行動計画」の評価目標値のうち、市民意識に関する項目について、基準年次（平成27年）からの意識変化の状況を把握し、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

2. 調査項目

- (1) 属性（性別、年代、結婚の状況、働き方、世帯構成、乳幼児・高齢者との同居、職業）
- (2) 男女平等について
- (3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (4) 女性と仕事について
- (5) 男女の地域・社会参画について
- (6) 男女共同参画の視点からの防災について
- (7) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (8) パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて
- (9) 男女共同参画社会づくりのための取組について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳に基づき性別・年代別・地区別無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収及びインターネット回答（礼状兼督促状1回送付）
- (6) 調査期間 平成30年10月15日（月）～10月31日（水）

4. 回収結果

性別	配布数	回収数	回収率
男性	1,000	351	35.1%
女性	1,000	448	44.8%
不明		58	
合計	2,000	857	42.9%

5. 報告書の見方

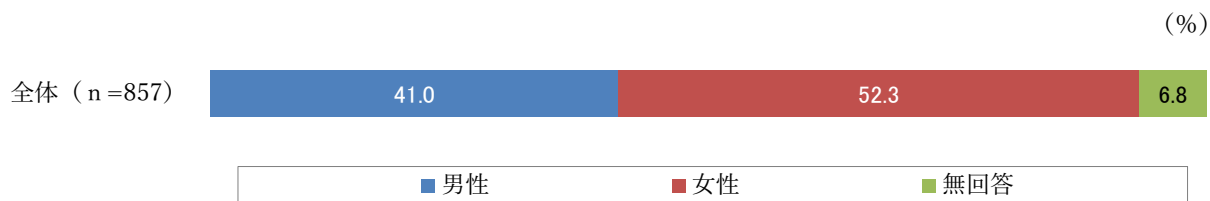
集計結果で示す数値は、百分率（%）で表示しました。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合があります。

II 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

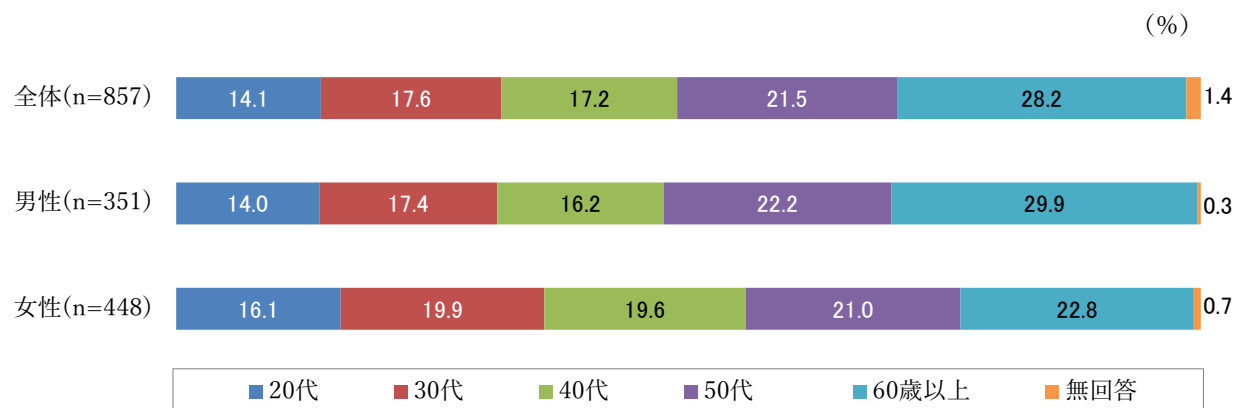
性別は、「男性」は41.0%、「女性」が52.3%となっている。



(2) 年代

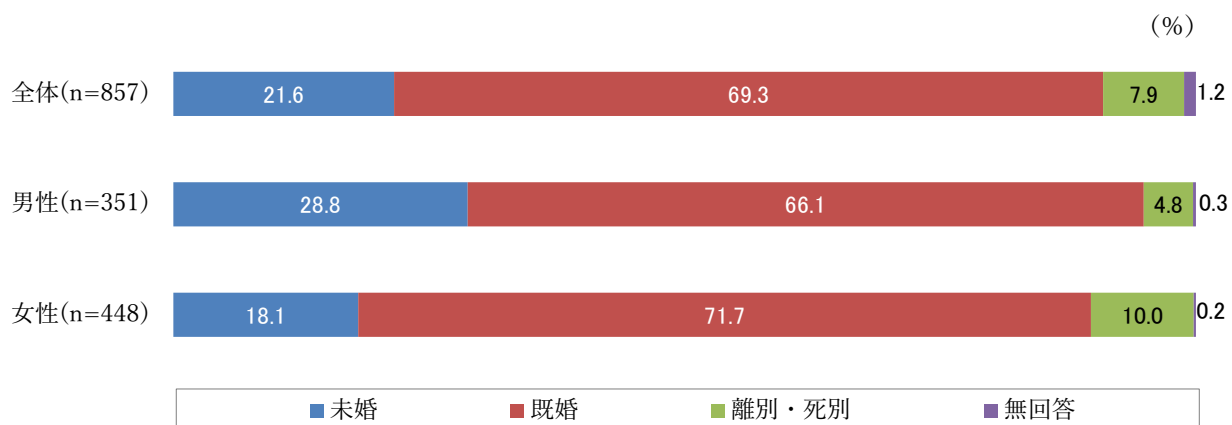
年齢は、「20代」が14.1%、「30代」が17.6%、「40代」が17.2%、「50代」が21.6%、「60歳以上」が28.2%となっている。

調査対象者は、各年代200名ずつ抽出しており、年代別の回答率は、高い年代ほど高い傾向となっている。



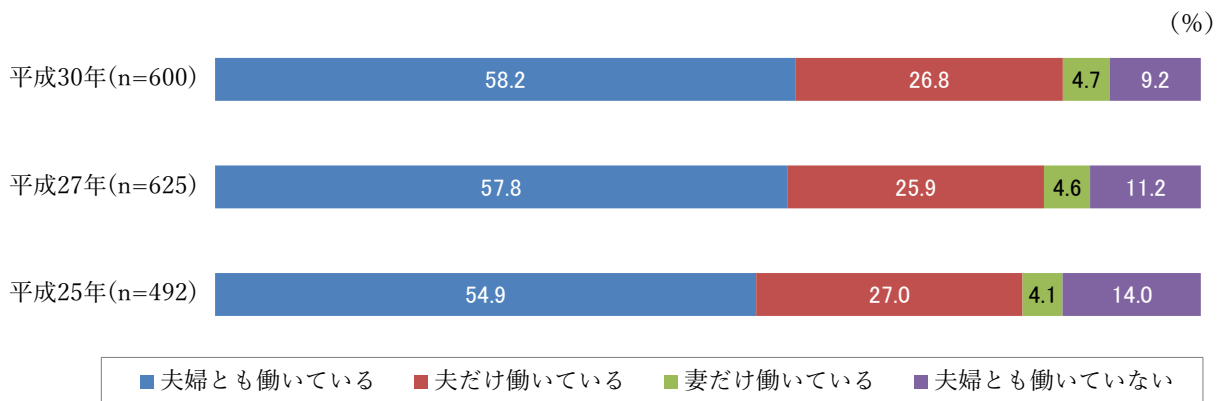
(3) 結婚の状況

結婚の状況は、「既婚」の割合が69.3%と最も高く、次いで「未婚」21.6%、「離別・死別」7.9%となっている。



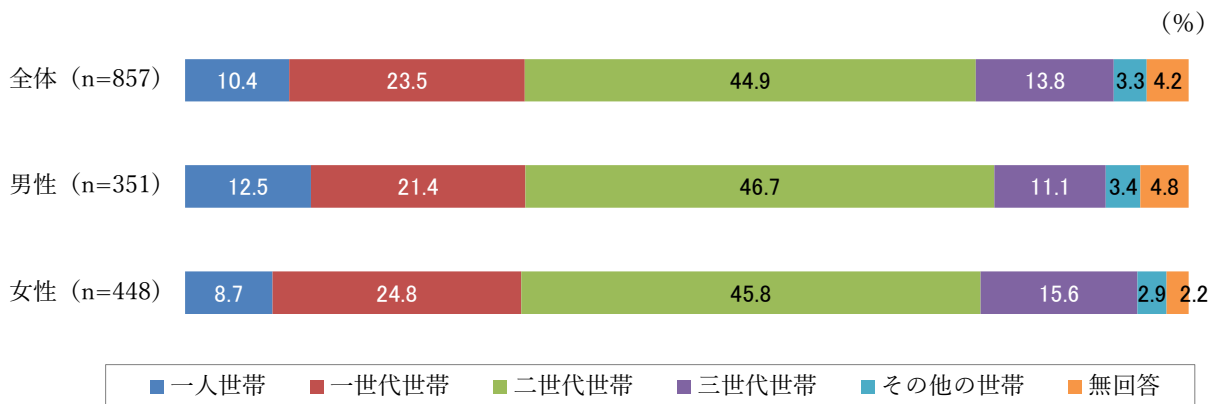
(4) 働き方

共働きの状況は、「夫婦とも働いている」が58.2%で最も高く、経年比較をみても夫婦の共働きの増加している。



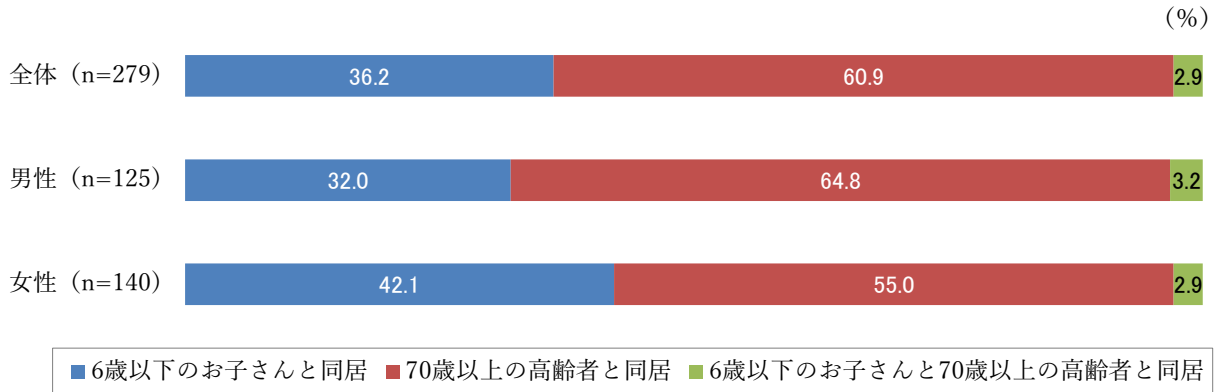
(5) 世帯構成

世帯構成は、全体で「二世帯世帯（親と子）」が44.9%で最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が23.5%、「三世帯世帯（親と子と孫）」が13.8%、「一人世帯」が10.8%とそれぞれ続いている。



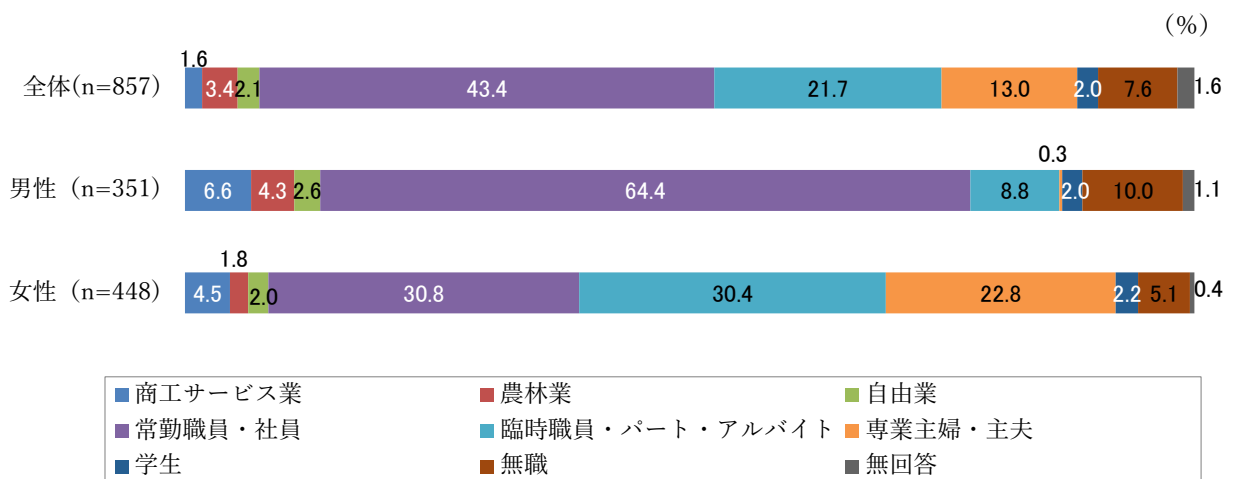
(6) 乳幼児・高齢者との同居

一人世帯以外の世帯で、乳幼児や高齢者との同居の状況は、「70歳以上の高齢者と同居」が60.9%、「6歳以下のお子さんと同居」が36.2%、「6歳以下のお子さんと70歳以上の高齢者と同居」が2.9%となっている。



(7) 職業

男性の職業は、「常勤職員・社員」が64.4%と6割を超えており、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が8.8%と続いている。一方、女性の職業も「常勤職員・社員」が30.8%と最も高く、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が30.4%、「専業主婦」が22.8%と続いている。



2. 男女平等について

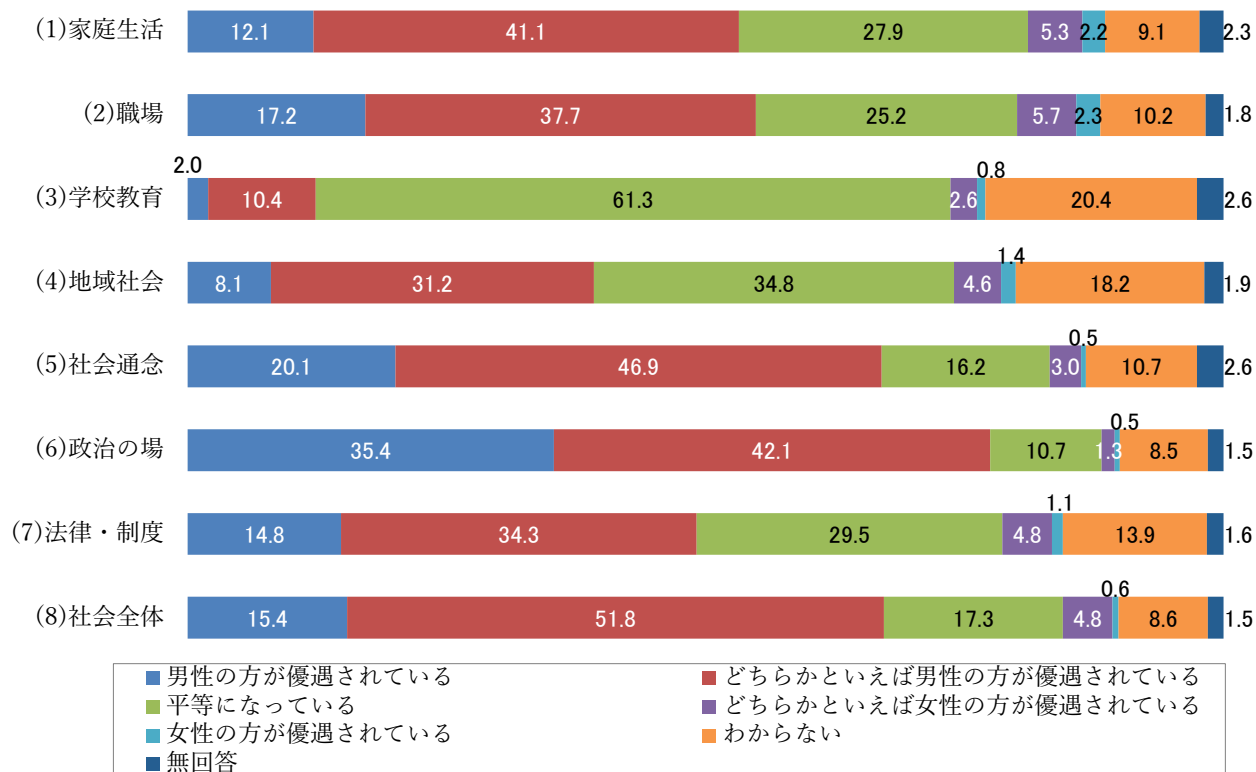
(1) 男女の地位の平等観

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

【全体】

「学校教育」を除く全ての項目で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高くなっており、「政治の場」の項目は7割以上、「社会通念・慣習・しきたり」、「社会全体」の項目でも6割以上の回答となっている。

また、「平等になっている」では、「学校教育」の項目のみが6割を超えている状況である。
(%)

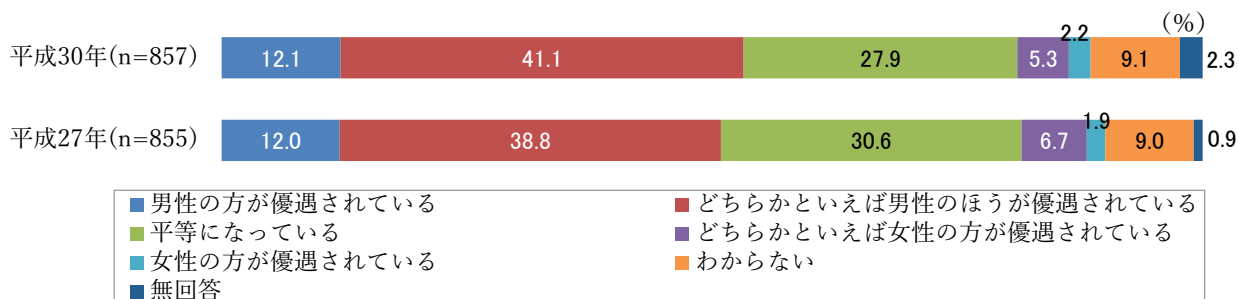


【第3次行動計画の評価目標】

項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度
「家庭生活」において男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅰ 施策の方向Ⅰ－2）	30.6%	27.9%	37.0%
「学校」における男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅰ 施策の方向Ⅰ－3）	62.6%	61.3%	68.0%
「社会全体」の中で男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅱ 施策の方向Ⅱ－1）	16.5%	17.3%	23.0%
「職場」において男女の地位が平等になっていると感じる人の割合（基本目標Ⅲ 施策の方向Ⅲ－3）	24.7%	25.2%	30.0%

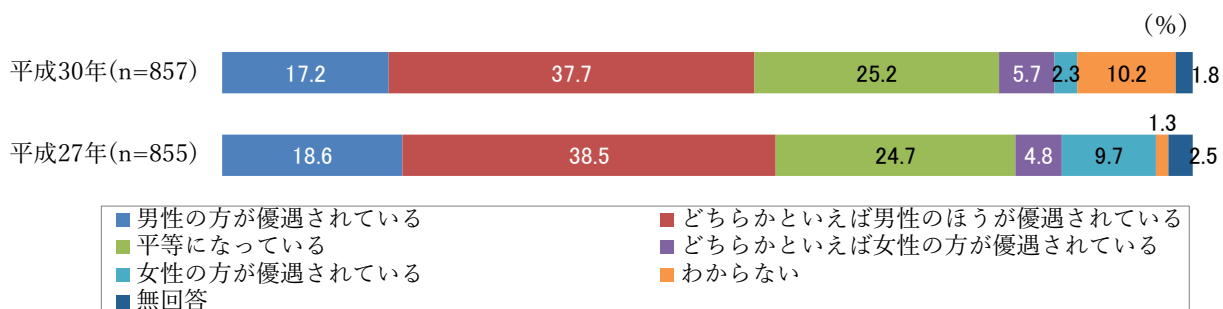
① 家庭生活

家庭生活において、「平等」と感じている人の割合は、27.9%と前回調査（平成27年調査を言う。以下同じ）から2.7ポイント減少している。依然として「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含め「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合（以下『男性が優遇（計）』という）は、53.2%で半数以上となっている。



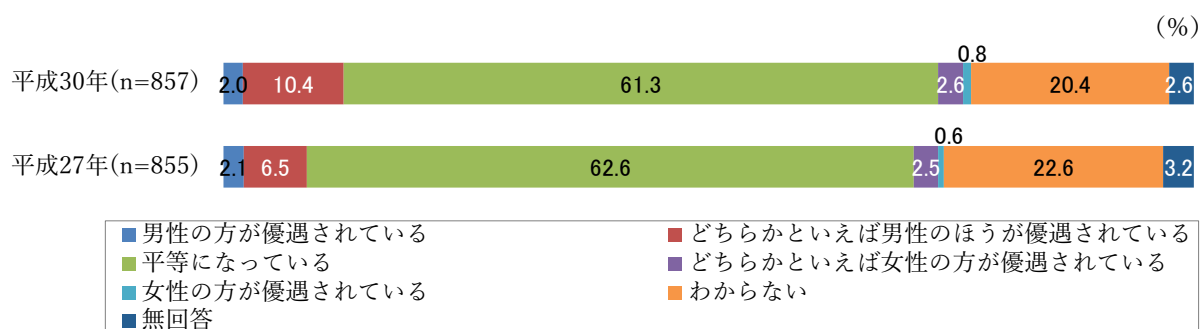
② 職場

職場において、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、54.9%と前回調査から2.2ポイント減少し、「平等」と感じている人の割合は徐々に増加している。



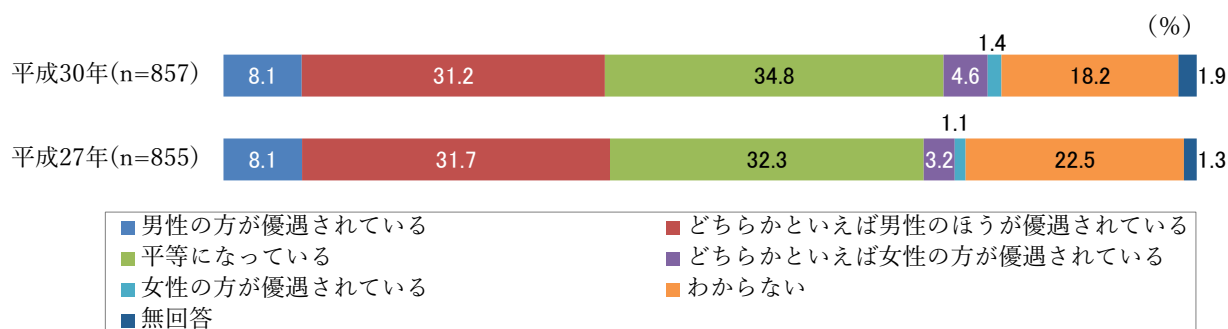
③ 学校教育

学校教育において、「平等」と感じている人の割合は、61.3%と前回調査に比べ1.3ポイント低く、平成22年調査以降減少傾向にある。



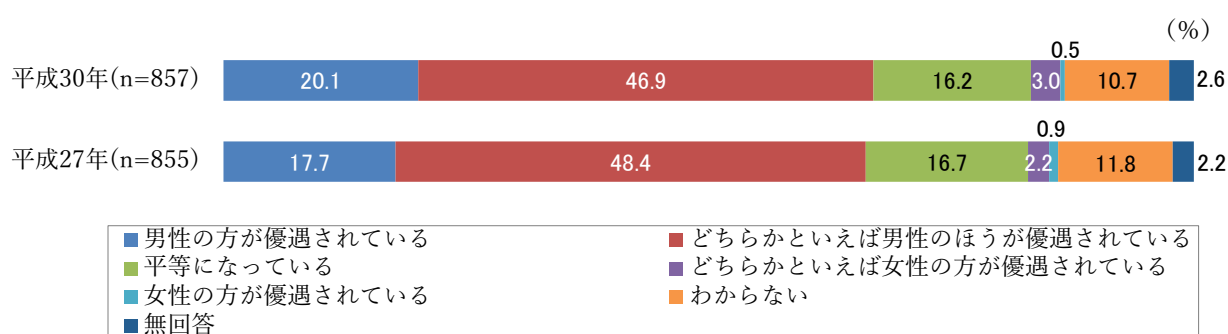
④ 町内会や自治会などの地域社会

地域社会において、「平等」と感じている人の割合は、34.8%で前回調査に比べ2.5ポイント増加している。



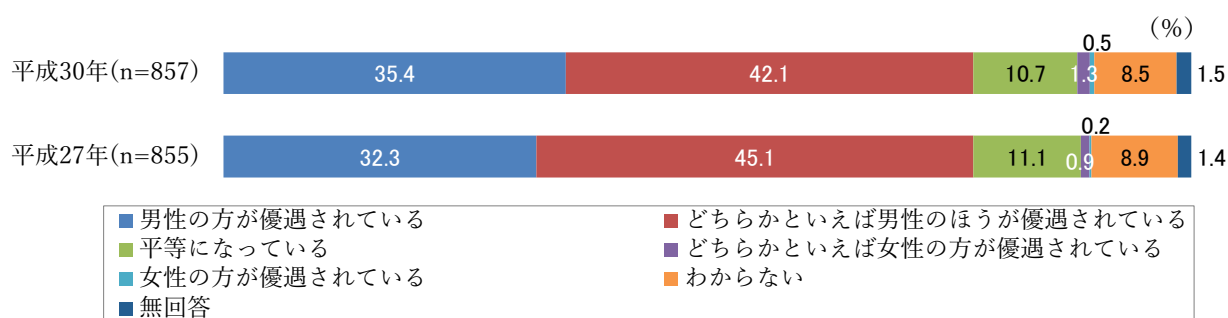
⑤ 社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりに関して、「平等」と感じている人の割合は、16.2%で前回調査に比べ0.5ポイント減少し、『男性が優遇（計）』は67.0%と前回調査から0.9ポイント増加している。



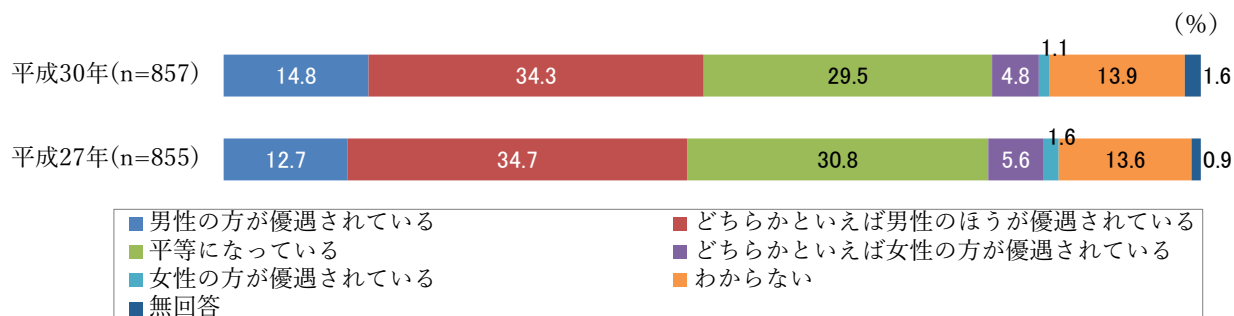
⑥ 政治の場

政治の場において、「平等」と感じている人の割合は、10.7%と前回調査に比べ0.4ポイント減少している。一方で「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は、前回調査から3.1ポイント増加している。



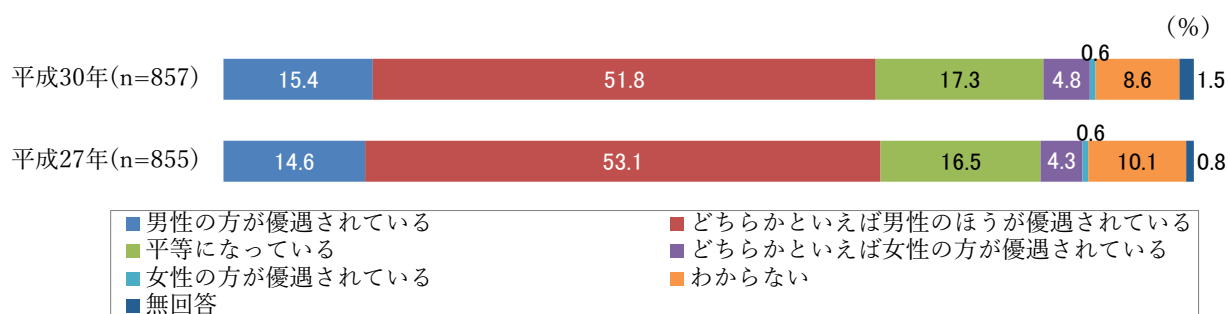
⑦ 法律や制度の上

法律や制度において、「平等」と感じている人の割合は、29.5%と前回調査からから1.3ポイント減少している。これに対し、『男性が優遇（計）』は、49.1%と前回調査に比べて1.7ポイント増加している。



⑧ 社会全体

社会全体において、「平等」と感じている人の割合は、17.9%で前回調査に比べ0.8ポイント増加しているが、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、67.2%と依然として高い割合で推移している。



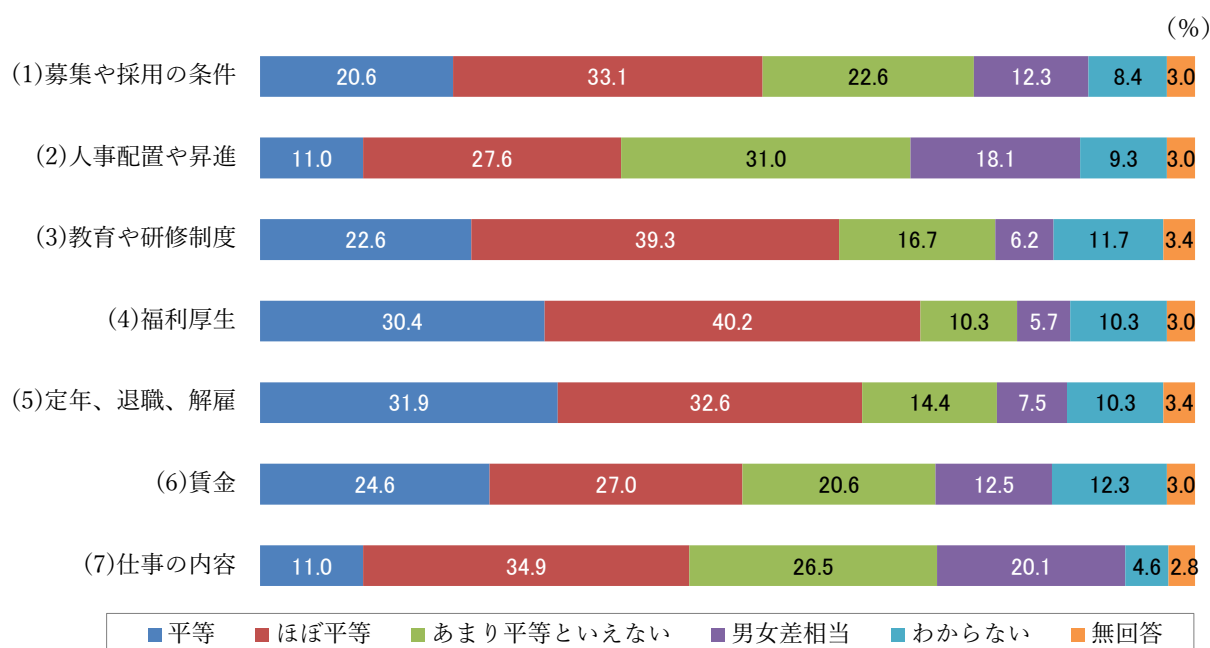
(2) 職場における男女平等

【問2】 あなたの職場では、どの程度男女平等になっていると思いますか。

【全体】

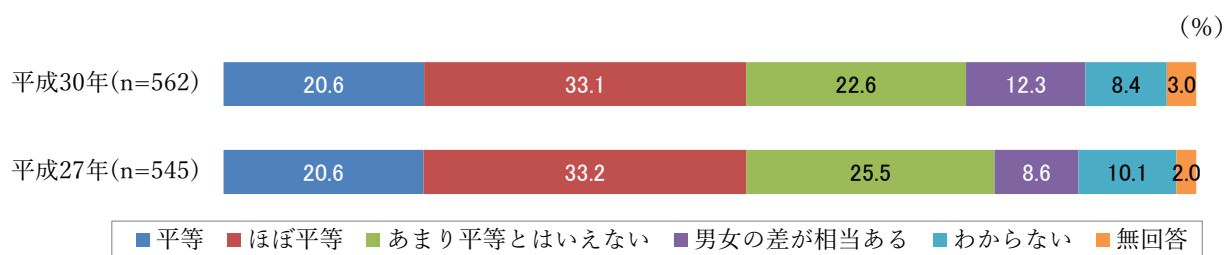
職場での男女平等について、「平等」と「ほぼ平等」と感じている人を合わせた『平等（計）』は、「人事配置や昇進」「仕事の内容」以外の項目で5割を超えている。

一方、「あまり平等とはいえない」と「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた『平等ではない（計）』の最も高い項目は、「人事配置や昇進」の49.1%で、次いで「仕事の内容」の46.6%となっている。



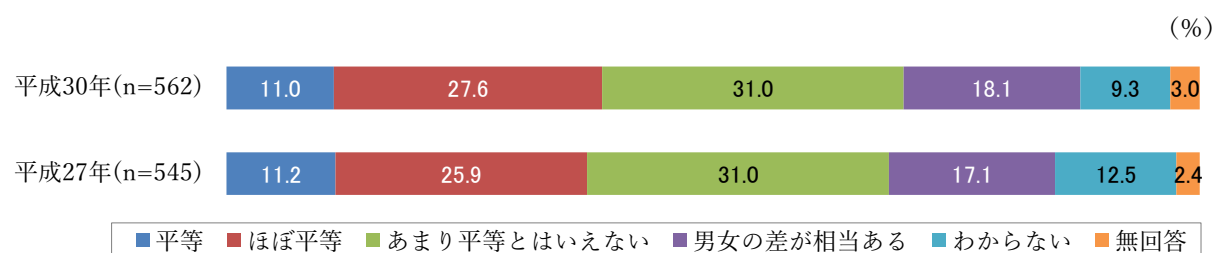
① 募集や採用の条件

募集や採用の条件において、『平等（計）』と感じている人の割合は、53.7%で前回調査に比べ0.1ポイント減少しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合は、34.9%で前回調査に比べると0.8ポイント増加している。



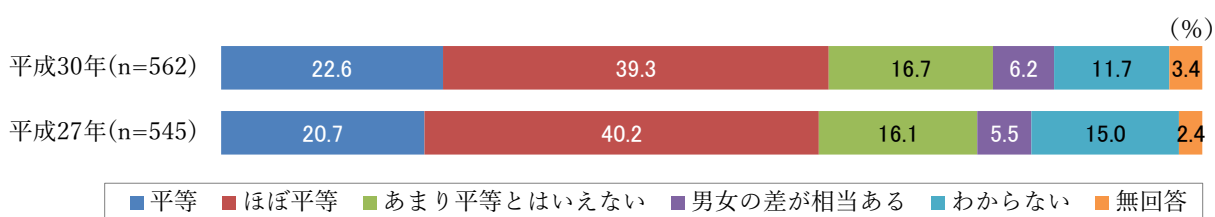
② 人事配置や昇進

人事配置や昇進において、『平等（計）』と感じている人の割合は、38.6%で前回調査に比べ1.5ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も49.1%で前回調査に比べると1.0ポイント増加している。



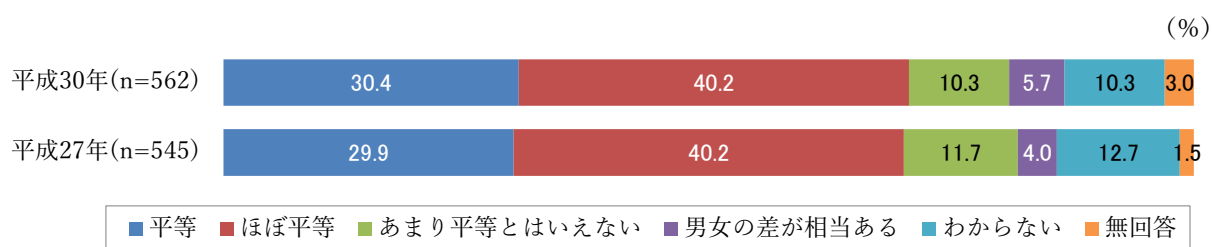
③ 教育や研修制度

教育や研修制度において、『平等（計）』と感じている人の割合は、61.9%で前回調査に比べ1.0ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も22.9%で前回調査に比べると1.3ポイント増加している。



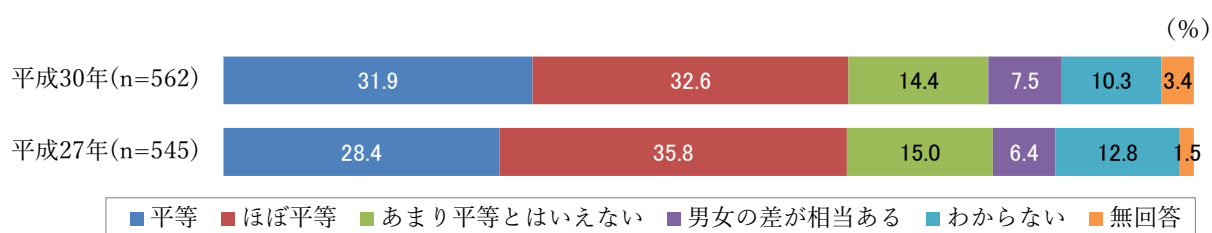
④ 福利厚生

福利厚生において、『平等（計）』と感じている人の割合は、70.6%で前回調査に比べ0.5ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も16%で前回調査に比べると0.3ポイント増加している。



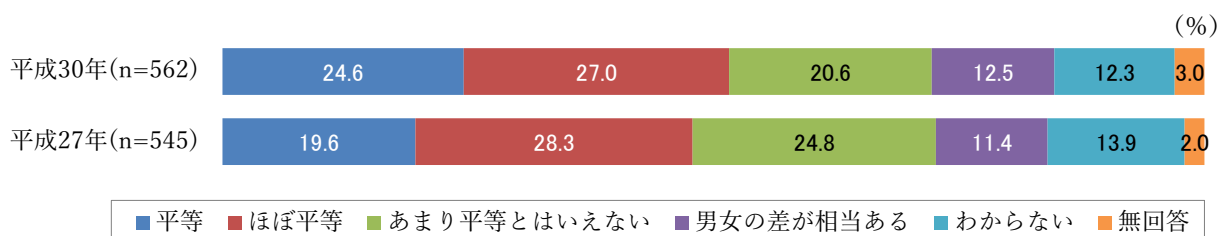
⑤ 定年、退職、解雇

定年、退職、雇用において、『平等（計）』と感じている人の割合は、64.5%で前回調査に比べ0.3ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も21.9%で前回調査に比べると0.5ポイント増加している。



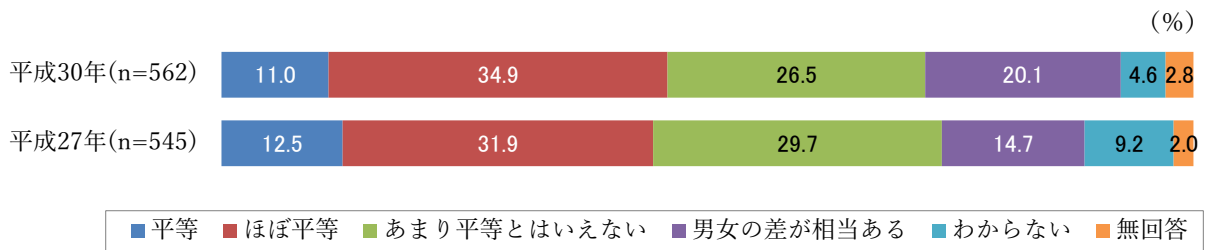
⑥ 賃金

賃金において、『平等（計）』と感じている人の割合は、51.6%で前回調査に比べ3.7ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合は33.1%で前回調査に比べると3.1ポイント減少している。



⑦ 仕事の内容

仕事の内容において、『平等（計）』と感じている人の割合は、45.9%で前回調査に比べ1.5ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も46.6%で前回調査に比べると2.2ポイント増加している。



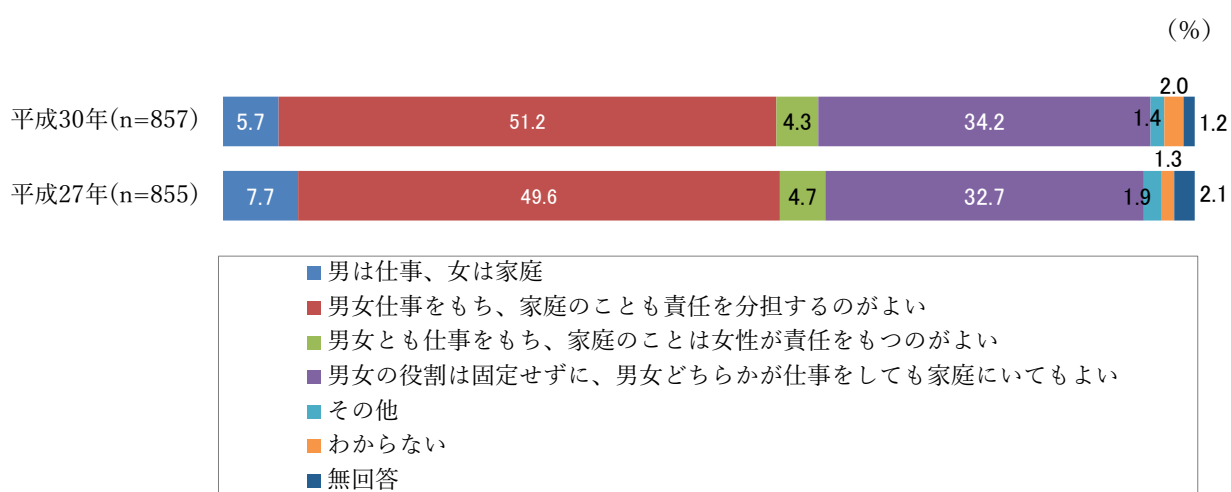
(3) 男は仕事、女は家庭という考え方

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「男女とも仕事をもち家庭のことは分担」が51.2%で最も高く、次いで、「男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」が34.2%、「男は仕事、女は家庭」が5.7%、「男女仕事をもち家庭のことは女性」が4.3%などの順となっている。

「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は減少している。一方で「男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」と考える人が増加している。



【第3次行動計画の評価目標】

項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度
「男は仕事、女は家庭」といった性別による役割を固定する考えを持つ人の割合（基本目標Ⅰ 施策の方向Ⅰ-1）	7.7%	5.7%	3.5% (以下)

3. 結婚・家庭生活・子育て介護について

(1) 結婚・家庭・離婚についての考え

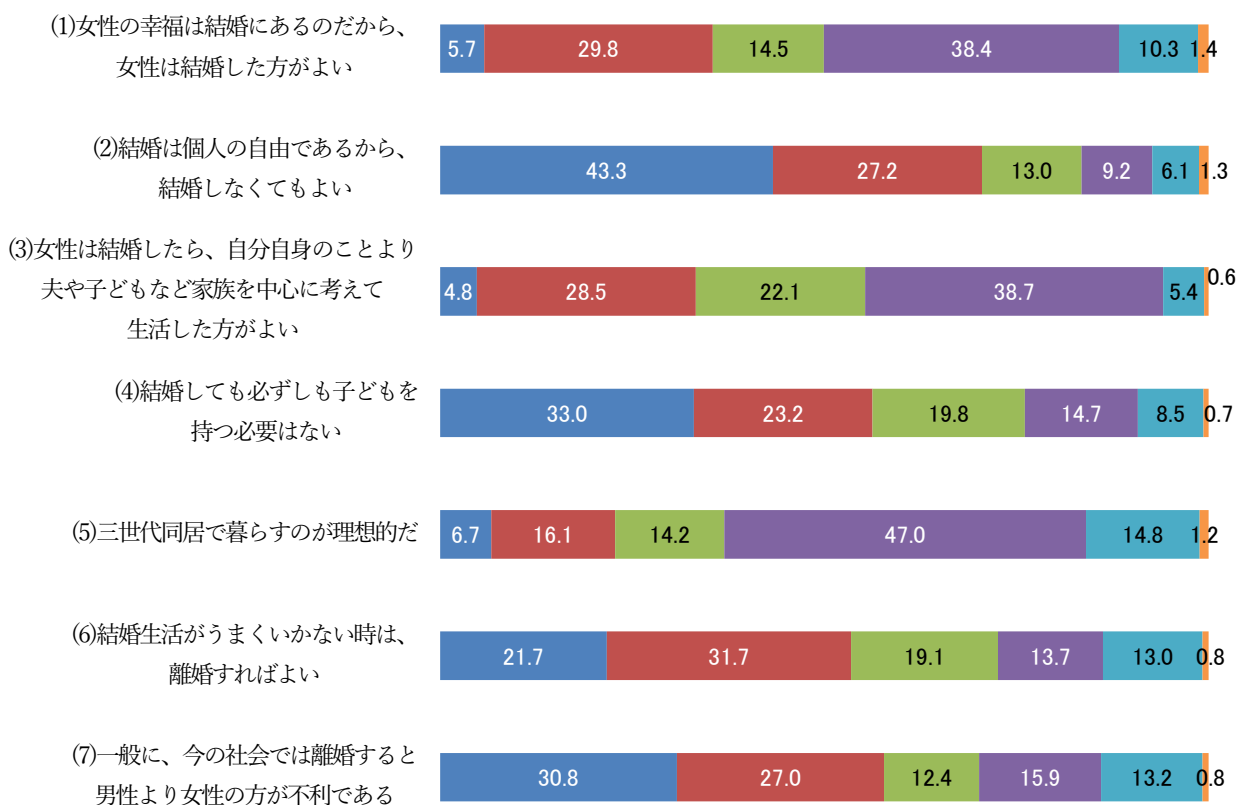
【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

結婚や家庭、離婚については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」が70.5%と最も高く、次いで、「一般に、今の社会では離婚すると男性よりも女性の方が不利である」が57.8%、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が56.2%などの順になっている。

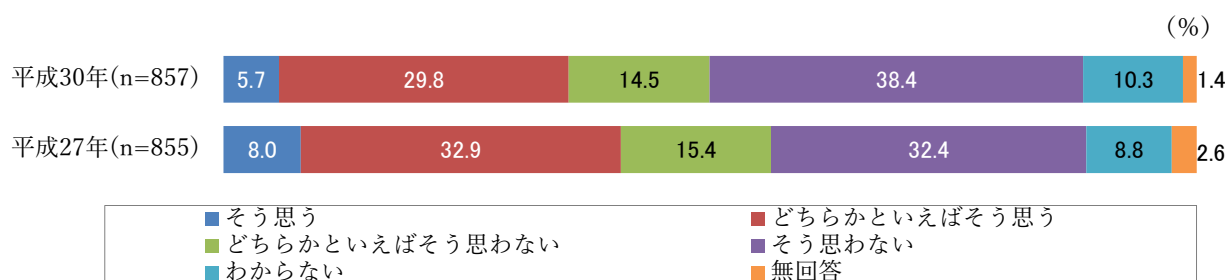
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が61.2%で最も高く、次いで、「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が60.8%などの順になっている。

(%)



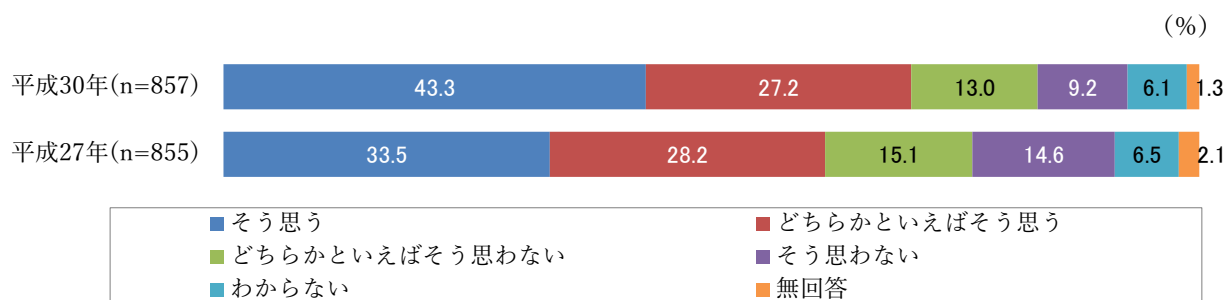
① 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい

「女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う(計)』は35.5%で前回調査に比べ5.4ポイント減少しているが、『そう思わない(計)』も52.9%で前回調査に比べると5.1ポイント増加している。



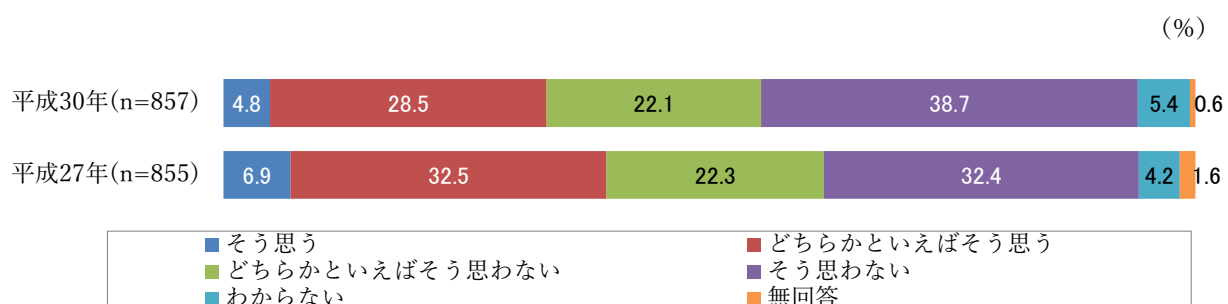
② 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい

「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う(計)』は70.5%で前回調査に比べ8.8ポイント増加しているが、『そう思わない(計)』は22.2%で前回調査に比べると7.5ポイント減少している。



③ 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

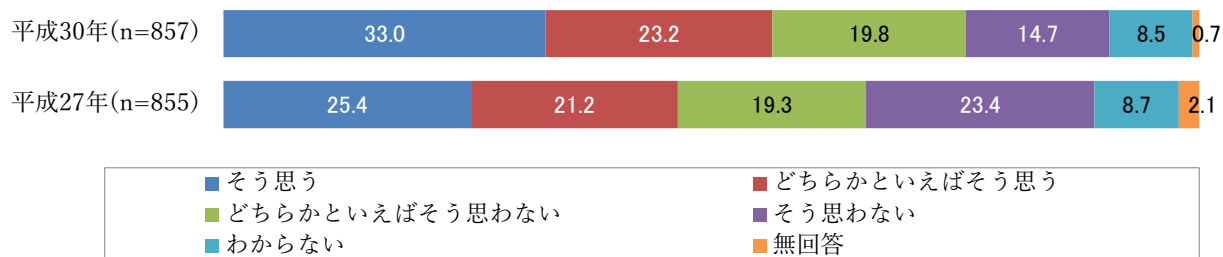
「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う(計)』は33.3%で前回調査に比べ6.1ポイント減少しているが、『そう思わない(計)』は60.8%で前回調査に比べると6.1ポイント増加している。



④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は56.2%で前回調査に比べ9.6ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は34.5%で前回調査に比べると8.2ポイント減少している。

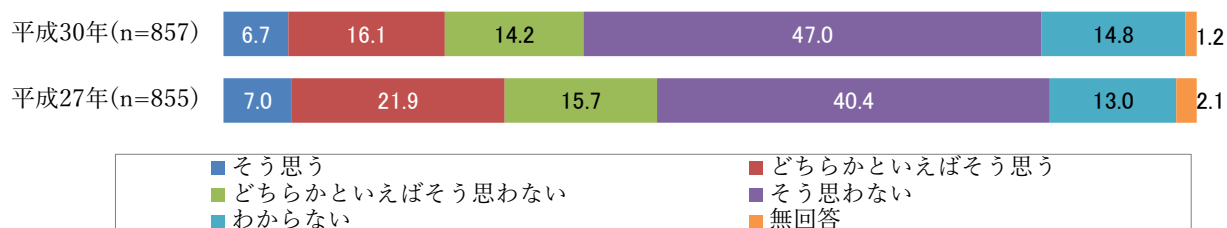
(%)



⑤ 三世代同居で暮らすのが理想的だ

「三世代同居で暮らすのが理想的だ」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は22.8%で前回調査に比べ6.1ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は61.2%で前回調査に比べると5.1ポイント増加している。

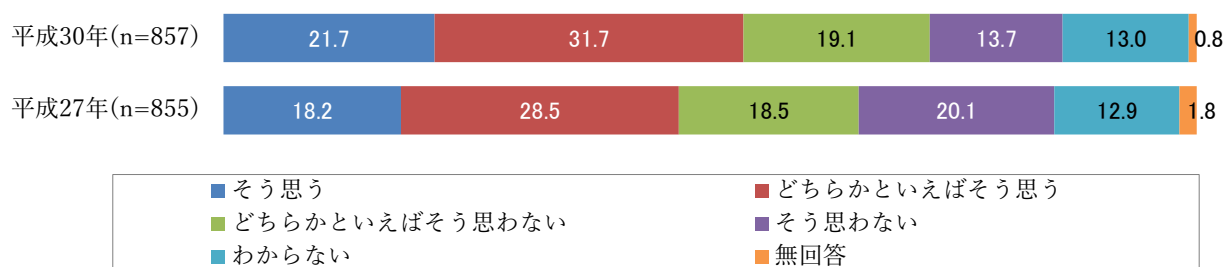
(%)



⑥ 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい

「結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は53.4%で前回調査に比べ6.7ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は32.8%で前回調査に比べると5.8ポイント減少している。

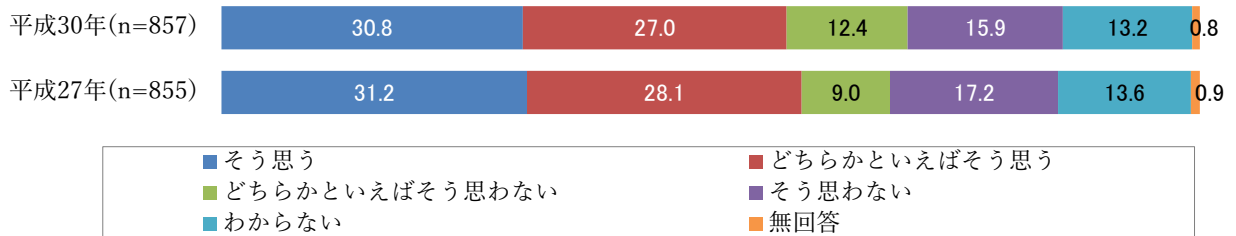
(%)



⑦ 一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である

「一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は57.8%で前回調査に比べ1.5ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は28.3%で前回調査に比べると2.1ポイント増加している。

(%)



(2) 夫婦の役割分担

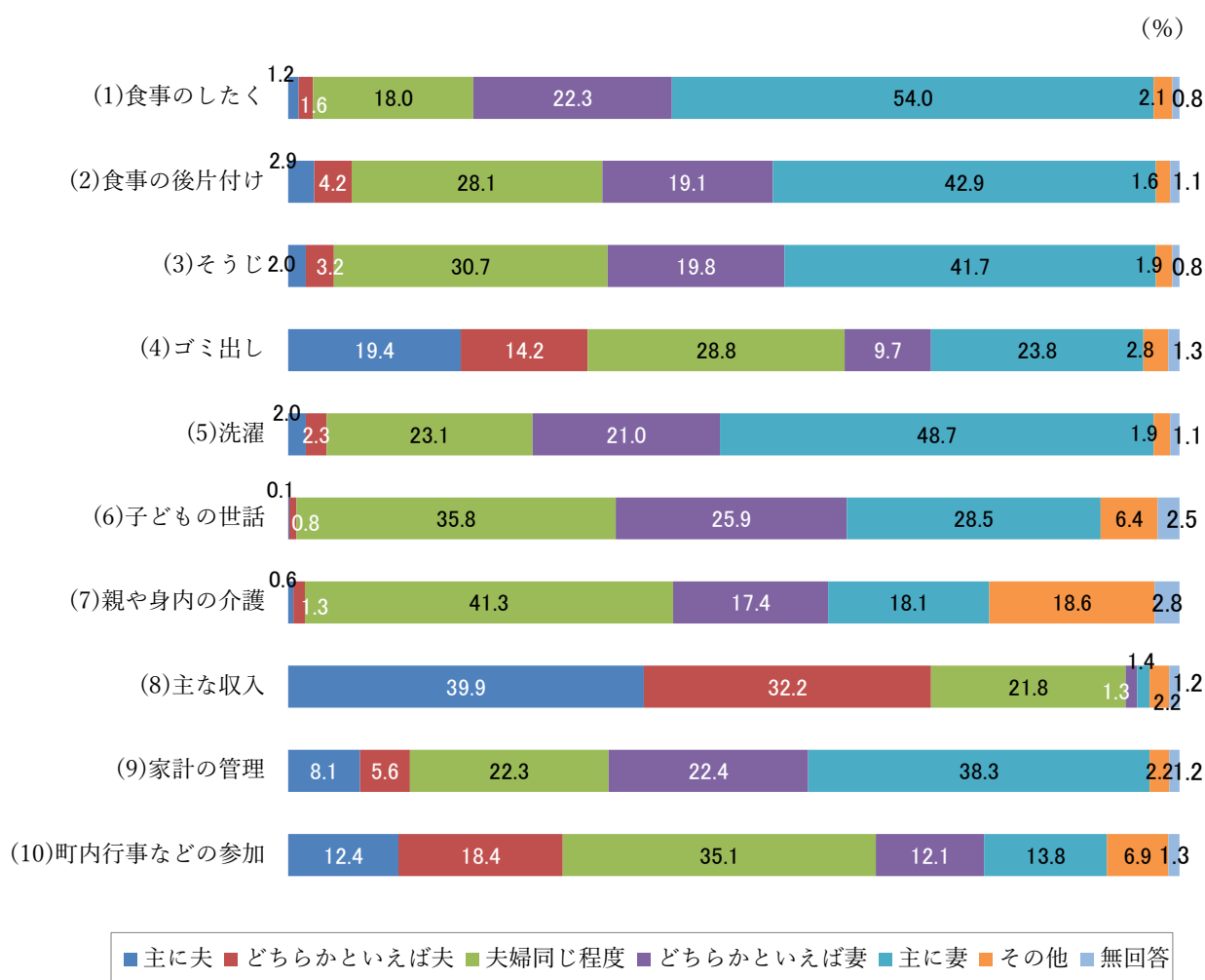
【問5】 あなたは、次の(1)～(10)について、夫婦間でどのように分担していますか。配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

【全体】

夫婦の役割分担については、「主に夫」と「どちらかと言えば夫」を合わせた『夫(計)』は、「主な収入」が72.1%と最も高く、次いで、「ゴミ出し」が33.6%、「町内行事などの参加」が30.8%などの順になっている。また、「夫婦同じ程度」は「親や身内の介護」が41.3%と最も高く、次いで、「子どもの世話」が35.8%、「町内行事などの参加」が35.1%などの順になっている。

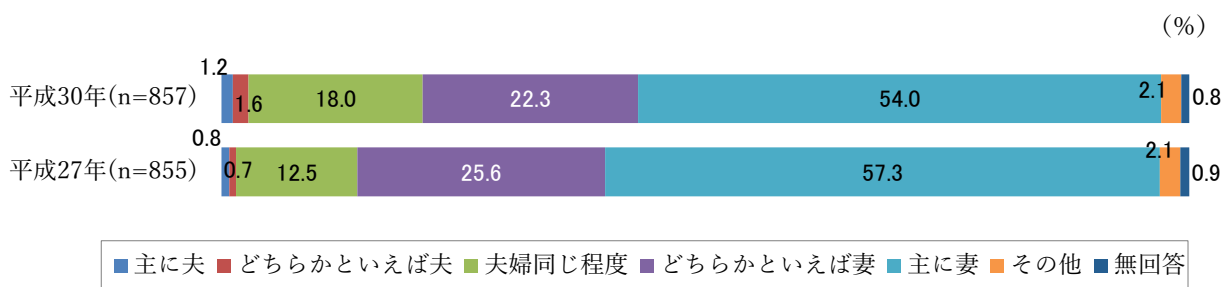
一方、「どちらかといえば妻」と「主に妻」を合わせた『妻(計)』は、「食事のしたく」が76.3%で最も高く、次いで、「洗濯」が69.7%、「食事の後片付け」が62.0%などの順になっている。

『夫(計)』と『妻(計)』を比較すると、「主な収入」、「ゴミ出し」、「町内行事などの参加」以外は妻の役割との割合が高くなっていて、多くの役割分担が女性に偏っている。



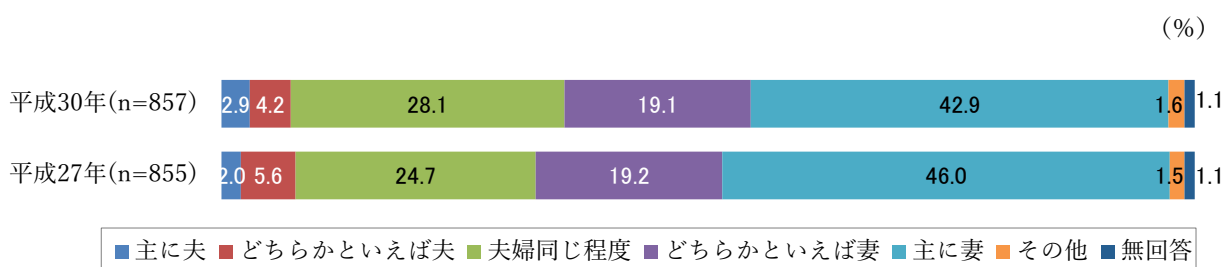
① 食事のしたく

「食事のしたく」について、「夫婦同じ程度」は18.0%で前回調査に比べ5.5ポイント増加している。



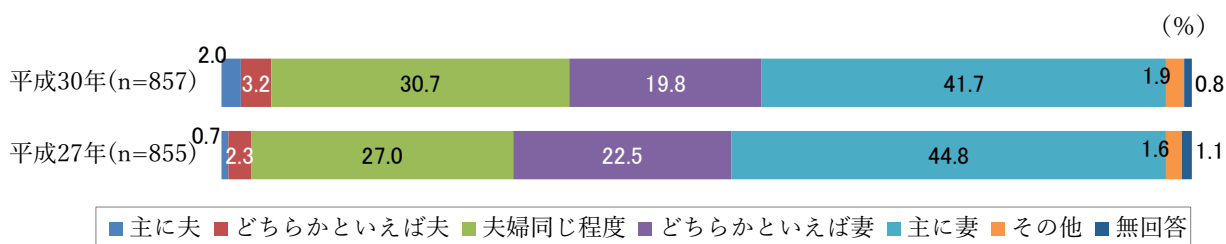
② 食事の後かたづけ

「食事の後かたづけ」について、「夫婦同じ程度」は28.1%で前回調査に比べ3.4ポイント増加している。



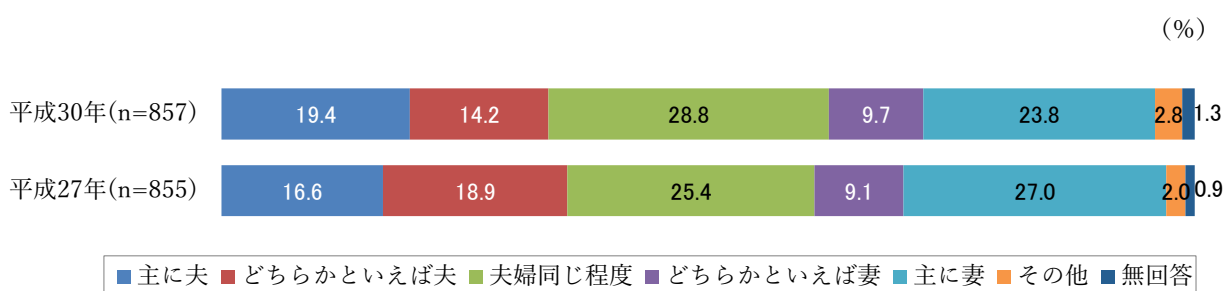
③ そうじ

「そうじ」について、「夫婦同じ程度」は30.7%で前回調査に比べ3.7ポイント増加している。



④ ゴミ出し

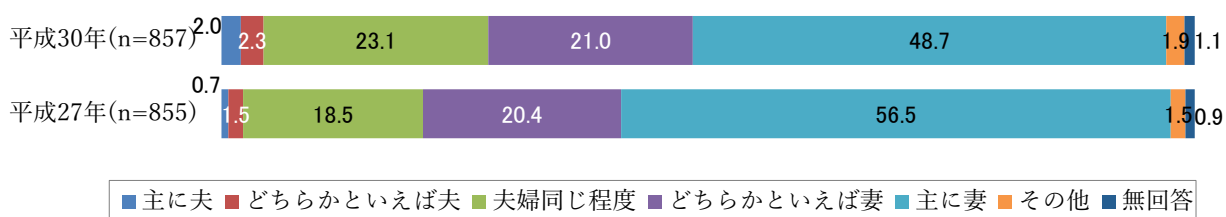
「ゴミ出し」について、「夫婦同じ程度」は28.8%で前回調査に比べ3.4ポイント増加している。



⑤ 洗濯

「洗濯」について、「夫婦同じ程度」は23.1%で前回調査に比べ4.6ポイント増加している。

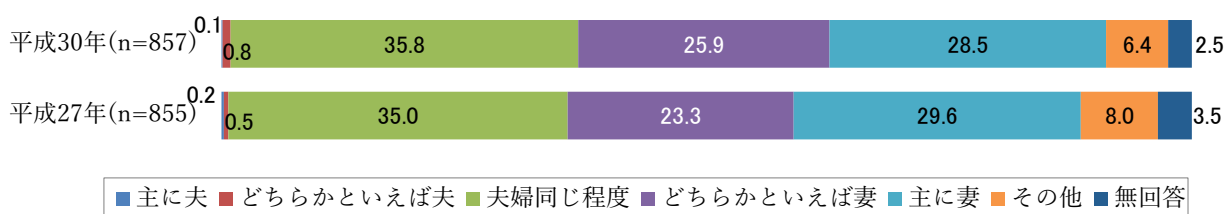
(%)



⑥ 子どもの世話

「子どもの世話」について、「夫婦同じ程度」は35.8%で前回調査に比べ0.8ポイント増加している。

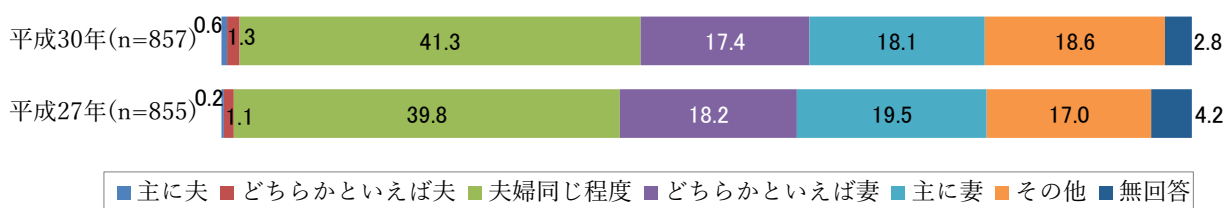
(%)



⑦ 親や身内の介護

「親や身内の介護」について、「夫婦同じ程度」は41.3%で前回調査に比べ1.5ポイント増加している。

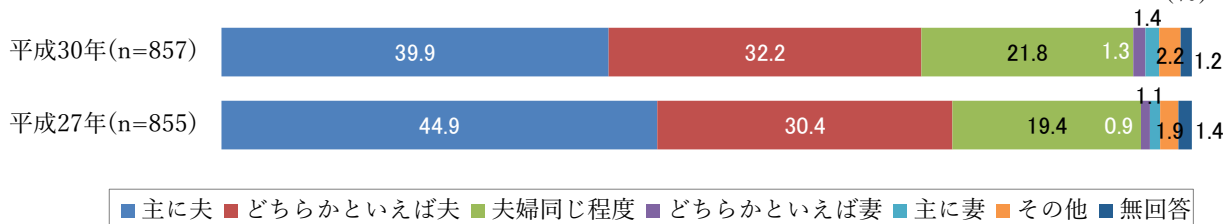
(%)



⑧ 主な収入

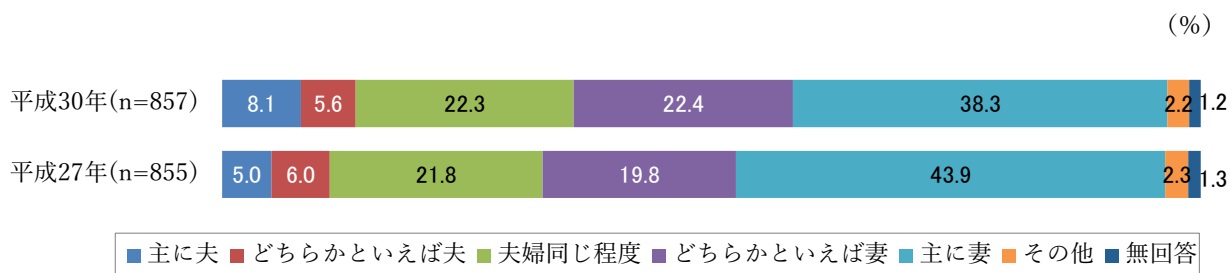
「主な収入」について、「夫婦同じ程度」は21.8%で前回調査に比べ2.4ポイント増加している。

(%)



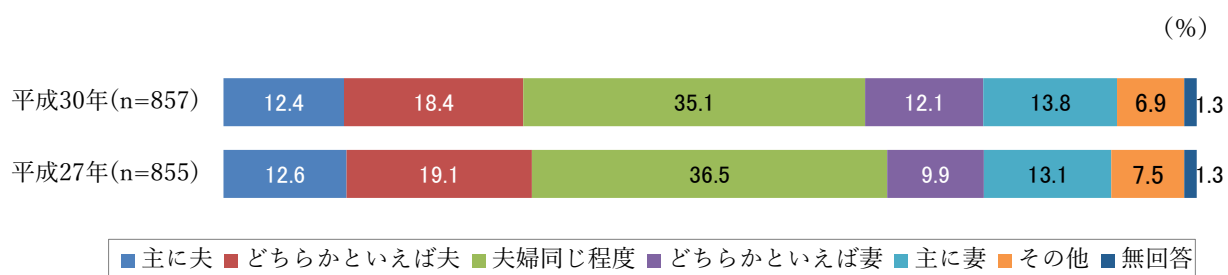
⑨ 家計の管理

「家計の管理」について、「夫婦同じ程度」は22.3%で前回調査に比べ0.5ポイント増加している。



⑩ 町内行事などの参加

「町内行事などの参加」について、「夫婦同じ程度」は35.1%で前回調査に比べ1.4ポイント減少している。

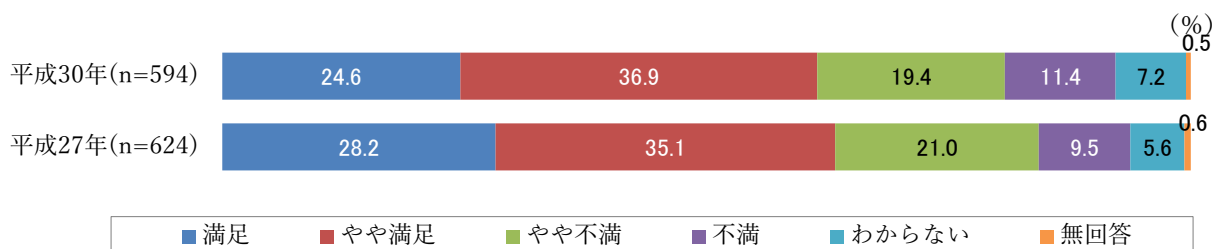


(3) 夫婦の役割分担の満足度

【問6】 あなたは、夫婦間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

【全体】

夫婦の役割分担の現状については、「満足」「やや満足」を合わせた『満足（計）』は61.5%で前回調査と比べて1.8ポイント減少している。

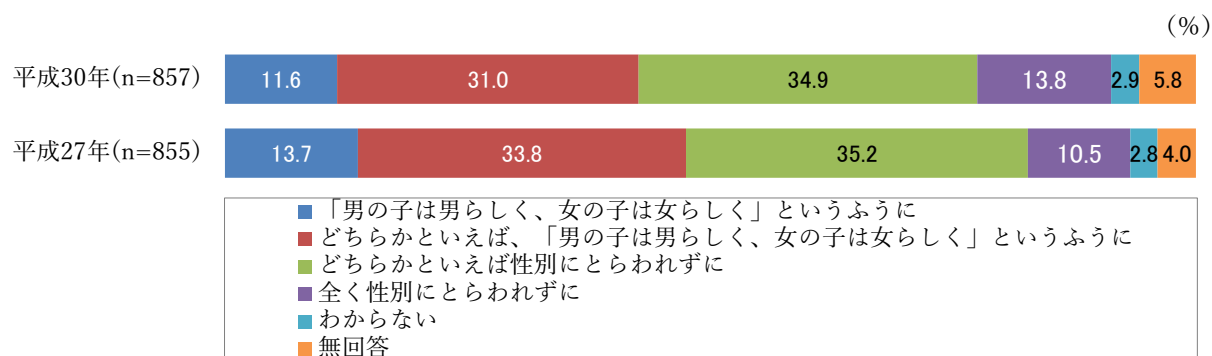


(4) 自分の子どもの育て方

【問7】 あなたは、自分の子どもをどう育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。

【全体】

自分の子どもの育て方については、「どちらかといえば性別にとらわれずに」、「全く性別にとらわれずに」を合わせた『性別にとらわれずに（計）』は48.7%で前回調査に比べて3.0ポイント増加している。

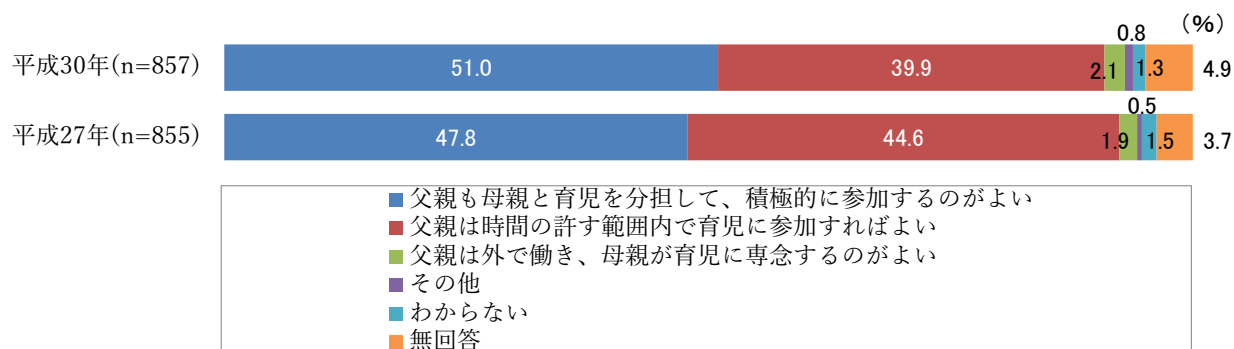


(5) 父親の育児参加に対する考え

【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。

【全体】

父親の育児参加については、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」が51.0%と前回調査に比べ3.2ポイント増加している。



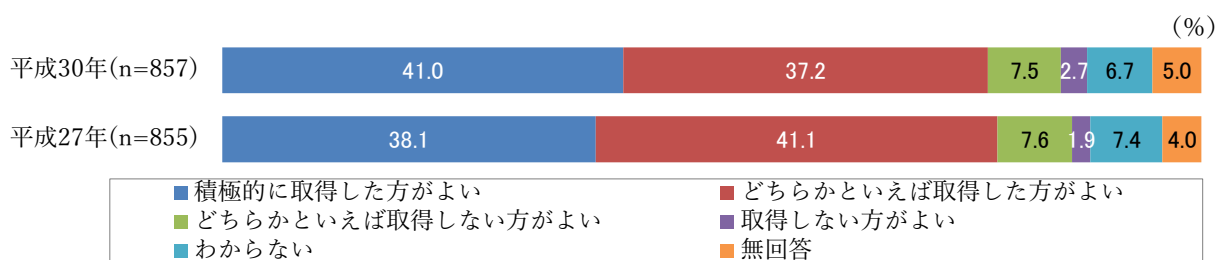
(6) 男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づく育児休業や介護休業の制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。

① 育児休業

【全体】

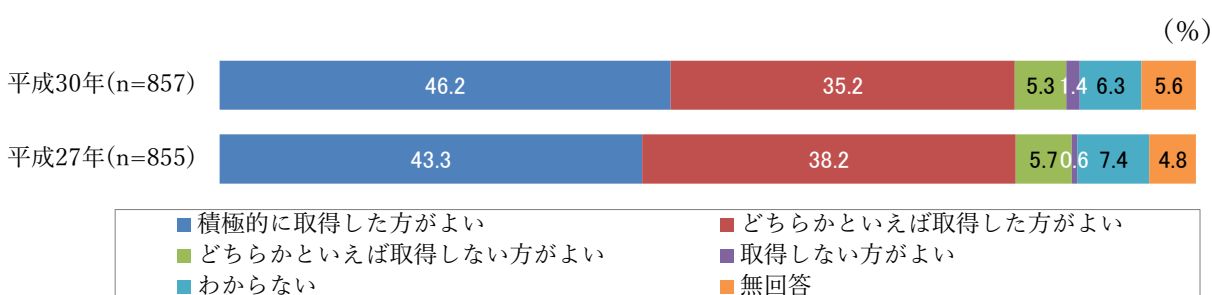
男性が育児休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい(計)』は78.2%で前回調査に比べ1.0ポイント減少している。一方、「どちらかといえば取得しないほうがよい」と「取得しない方がよい」を合わせた『取得しない方がよい(計)』は10.2%で前回調査より0.7ポイント増加している。



② 介護休業

【全体】

男性が介護休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい(計)』は81.4%で前回調査と比べ0.1ポイント減少している。一方、「どちらかといえば取得しないほうがよい」と「取得しない方がよい」を合わせた『取得しない方がよい(計)』は6.7%で前回調査より0.4ポイント減少している。



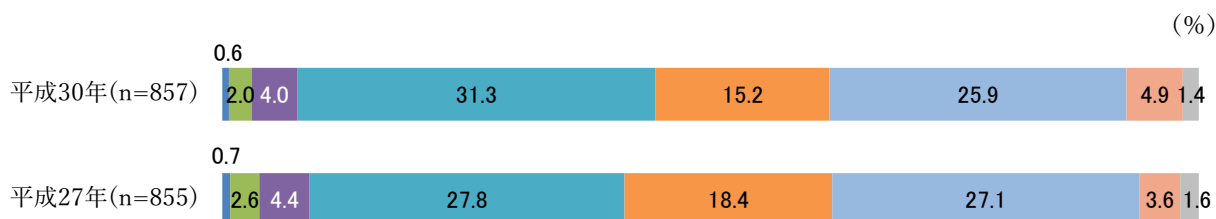
4. 女性と仕事について

(1) 女性が仕事を持つことについての考え

【問10】 女性が仕事を持つことについてどうお考えですか。

【全体】

女性が仕事を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が31.3%で前回調査に比べ3.5ポイント増加し最も高く、次いで、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が25.9%で前回調査に比べ1.2ポイント減少し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が15.2%で前回調査に比べ3.2ポイント減少している。



- 女性は無職業の方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
- その他
- 無回答

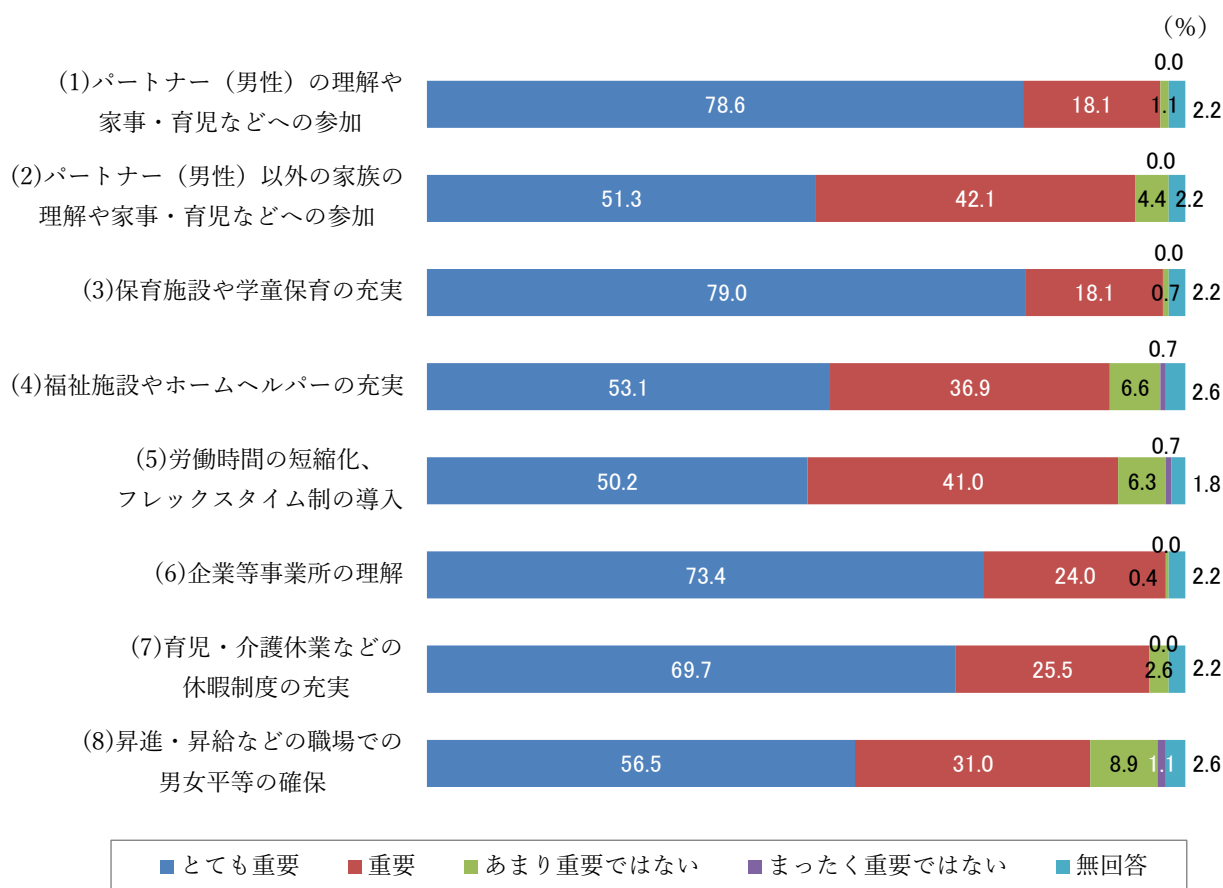
(1 - 1) 女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

【問10-1】 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

【全体】

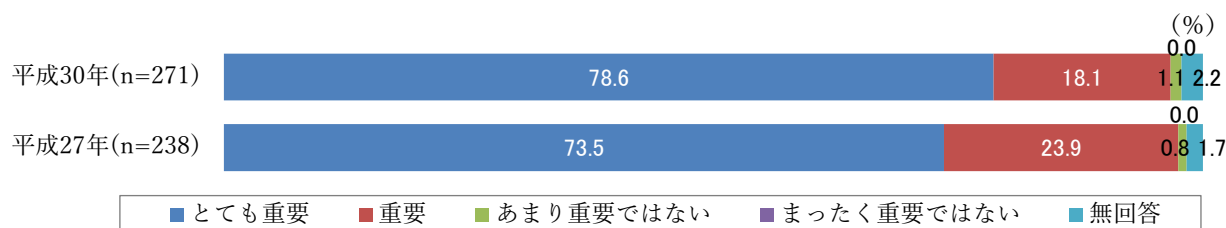
女性が仕事を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した268人に働き続けるために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は「保育施設や学童保育の充実」で79.0%と最も高く、次いで「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」の78.6%、「企業等事業所の理解」の73.4%などの順となっている。

また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要（計）』は「企業等事業所の理解」で97.4%と最も高く、次いで、「保育施設や学童保育の充実」の97.1%、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」の96.7%などの順となっている。



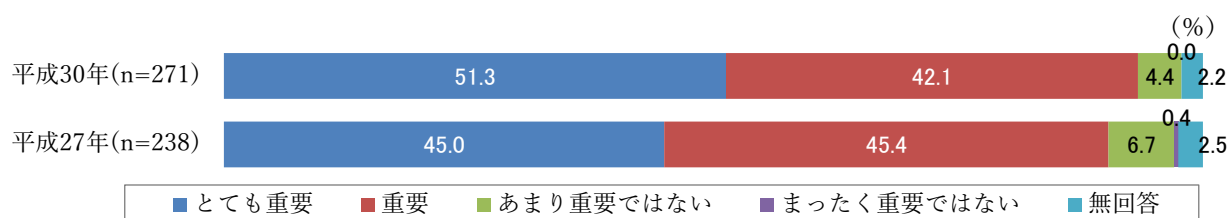
① パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加

パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は96.7%で前回調査より0.7ポイント減少しているが、「とても重要」は5.1ポイント増加している。



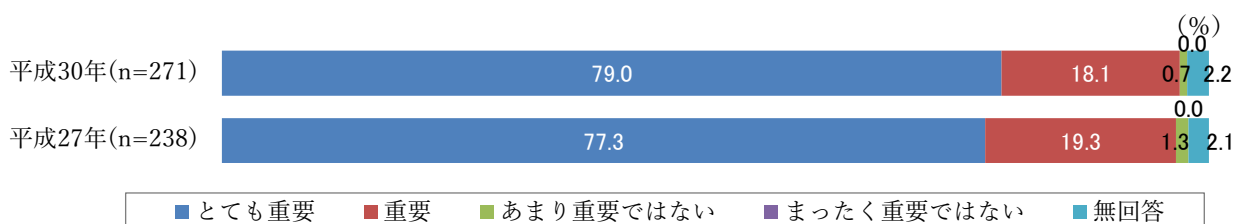
② パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加

パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は93.4%で前回調査より3.0ポイント増加している。



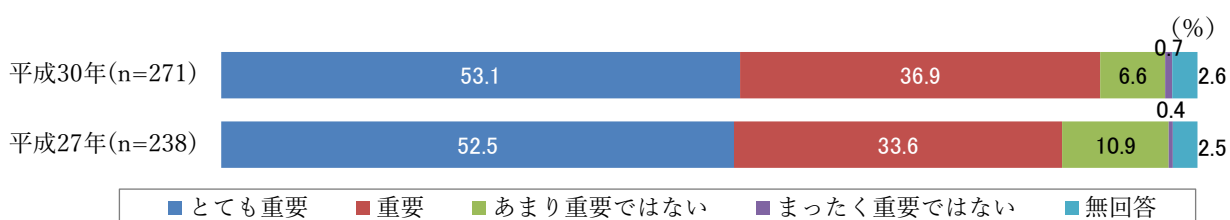
③ 保育施設や学童保育の充実

保育施設や学童保育の充実について、『重要（計）』は97.1%で前回調査より0.5ポイント増加している。



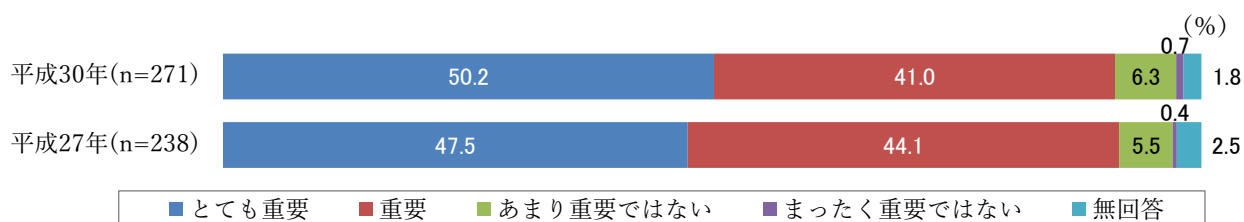
④ 福祉施設やホームヘルパーの充実

福祉施設やホームヘルパーの充実について、『重要（計）』は90.0%で前回調査より3.9ポイント増加している。



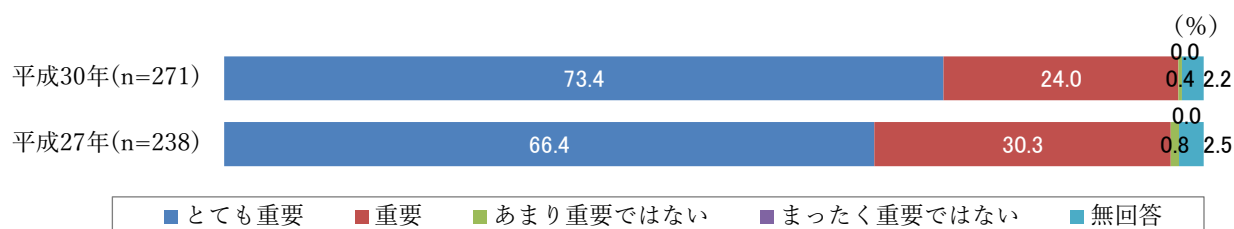
⑤ 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入

労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入について、『重要（計）』は91.2%で前回調査より0.4ポイント減少している。



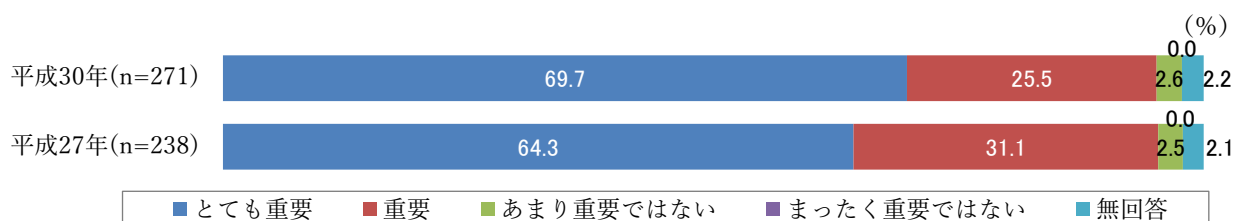
⑥ 企業等事業所の理解

企業等事業所の理解について、『重要（計）』は97.4%で前回調査より0.7ポイント増加している。



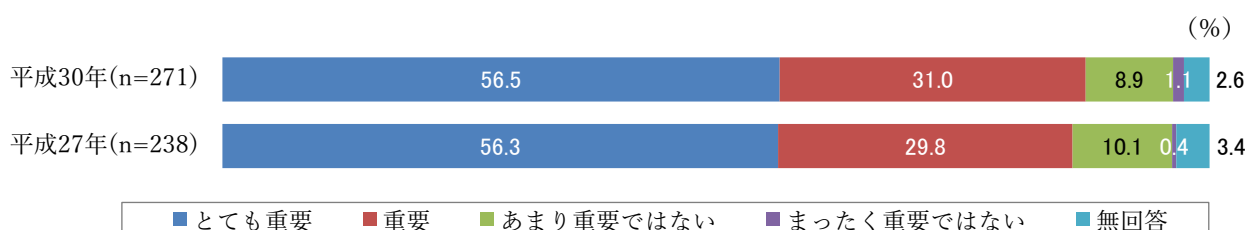
⑦ 育児・介護休業などの休暇制度の充実

育児・介護休業などの休暇制度の充実について、『重要（計）』は95.2%で前回調査より0.2ポイント減少しているが、「とても重要」は5.4ポイント増加している。



⑧ 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保

昇進・昇給などの職場での男女平等の確保について、『重要（計）』は87.5%で前回調査より1.4ポイント増加している。

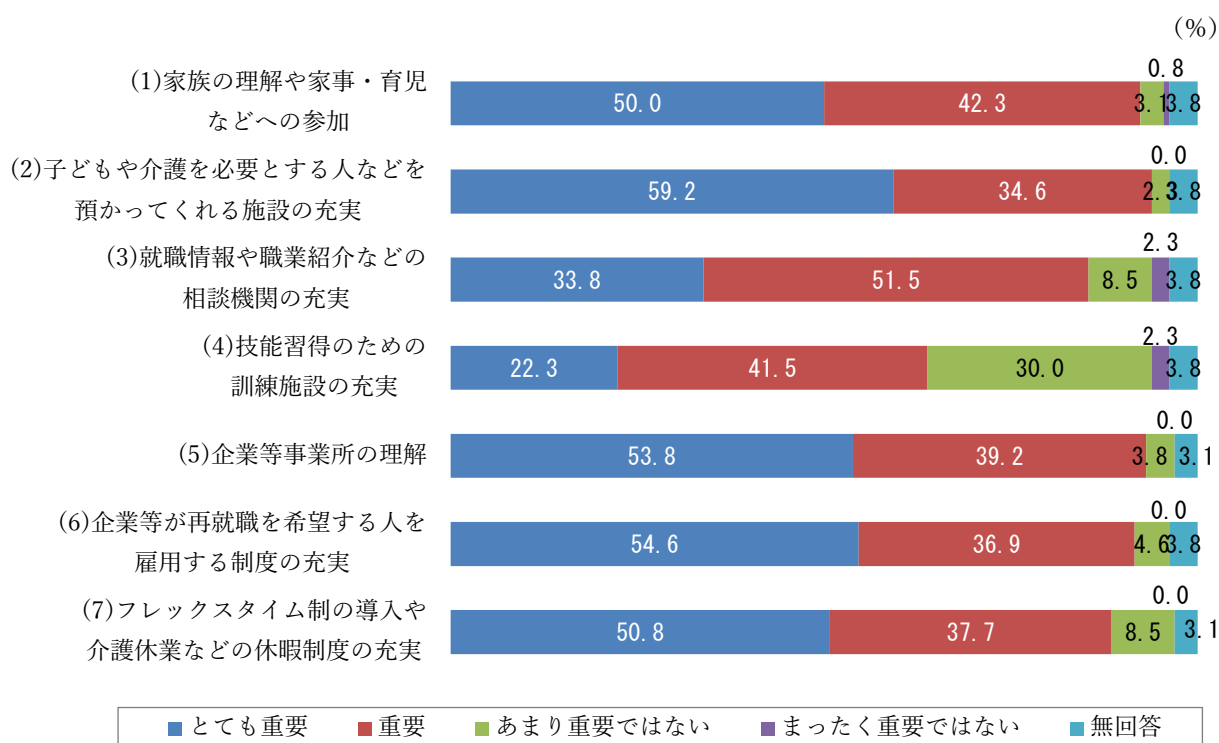


(1 - 2) 結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと

【問10 - 2】 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。

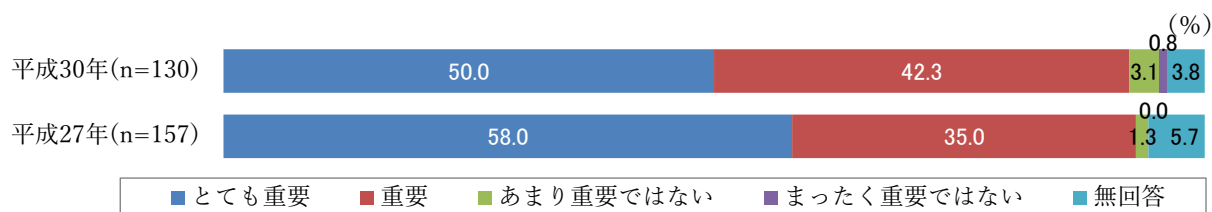
【全体】

女性が仕事を持つことについて、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した130人に再就職するために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」で59.2%と最も高く、次いで、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」の54.6%、「企業等事業所の理解」の53.8%などの順となっている。また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要(計)』は「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」で93.8%と最も高く、次いで、「企業等事業所の理解」の93.0%、「家族の理解や家事・育児などへの参加」の92.3%などの順となっている。一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせた『重要ではない(計)』は「技能習得のための訓練施設の充実」の32.3%が最も高くなっている。



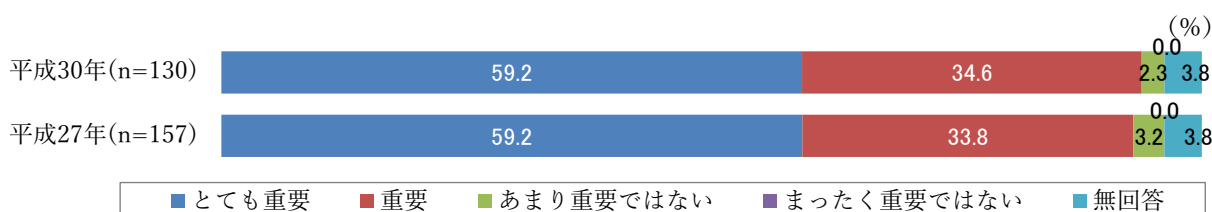
① 家族の理解や家事・育児などへの参加

家族の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は92.3%で前回調査より0.7ポイント減少している。



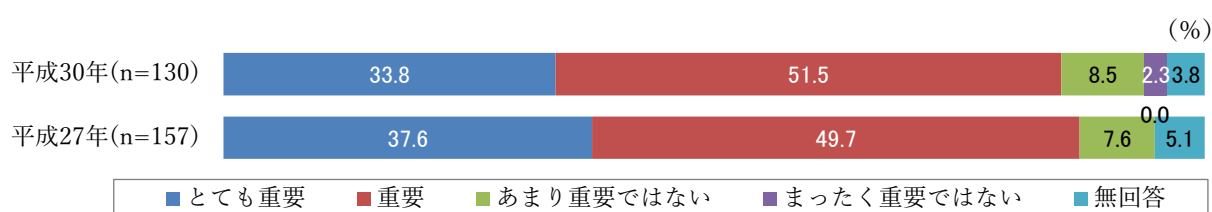
② 子どもや介護を必要とする人などを預ってくれる施設の充実

子どもや介護を必要とする人などを預ってくれる施設の充実について、『重要（計）』は93.8%で前回調査より0.8ポイント増加している。



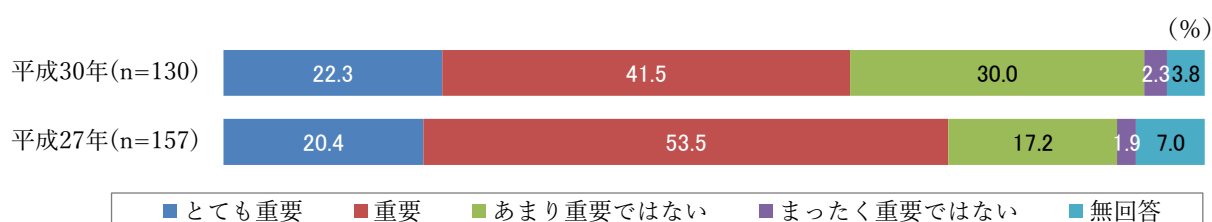
③ 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実

就職情報や職業紹介などの相談機関の充実について、『重要（計）』は85.3%で前回調査より2.0ポイント減少している。



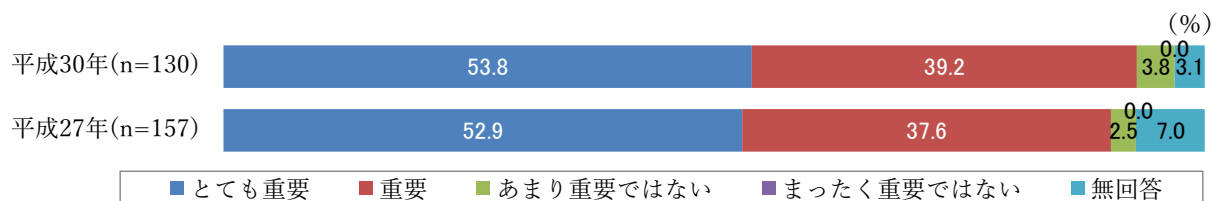
④ 技能習得のための訓練施設の充実

技能習得のための訓練施設の充実について、『重要（計）』は63.8%で前回調査より10.1ポイント減少している。



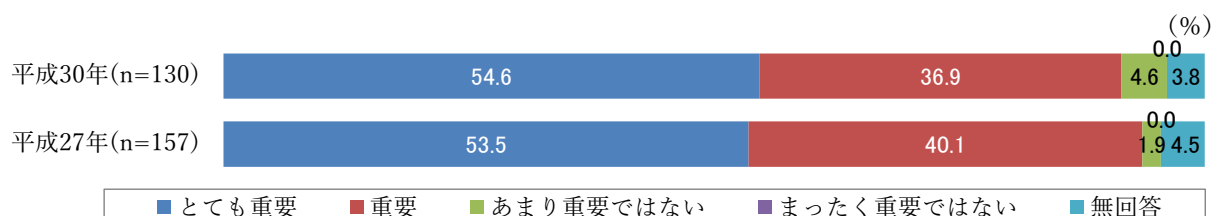
⑤ 企業等事業所の理解

企業等事業所の理解について、『重要（計）』は93.0%で前回調査より2.5ポイント増加している。



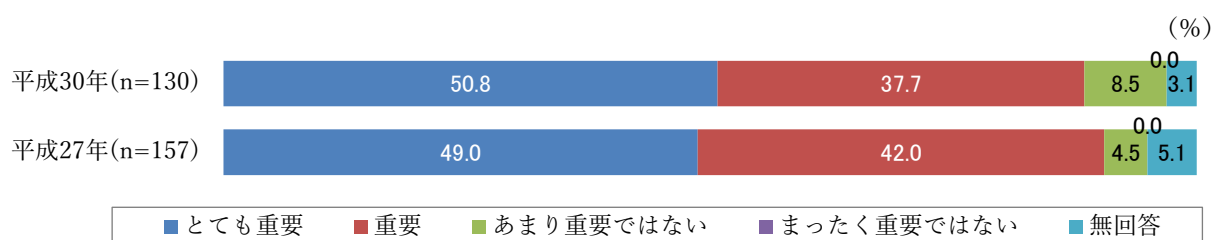
⑥ 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実

企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実について、『重要（計）』は91.5%で前回調査より2.1ポイント減少している。



⑦ フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実

フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実について、『重要（計）』は88.5%で前回調査より2.5ポイント減少している。



5. 男女の地域・社会参画について

(1) 地域・社会活動への参加状況

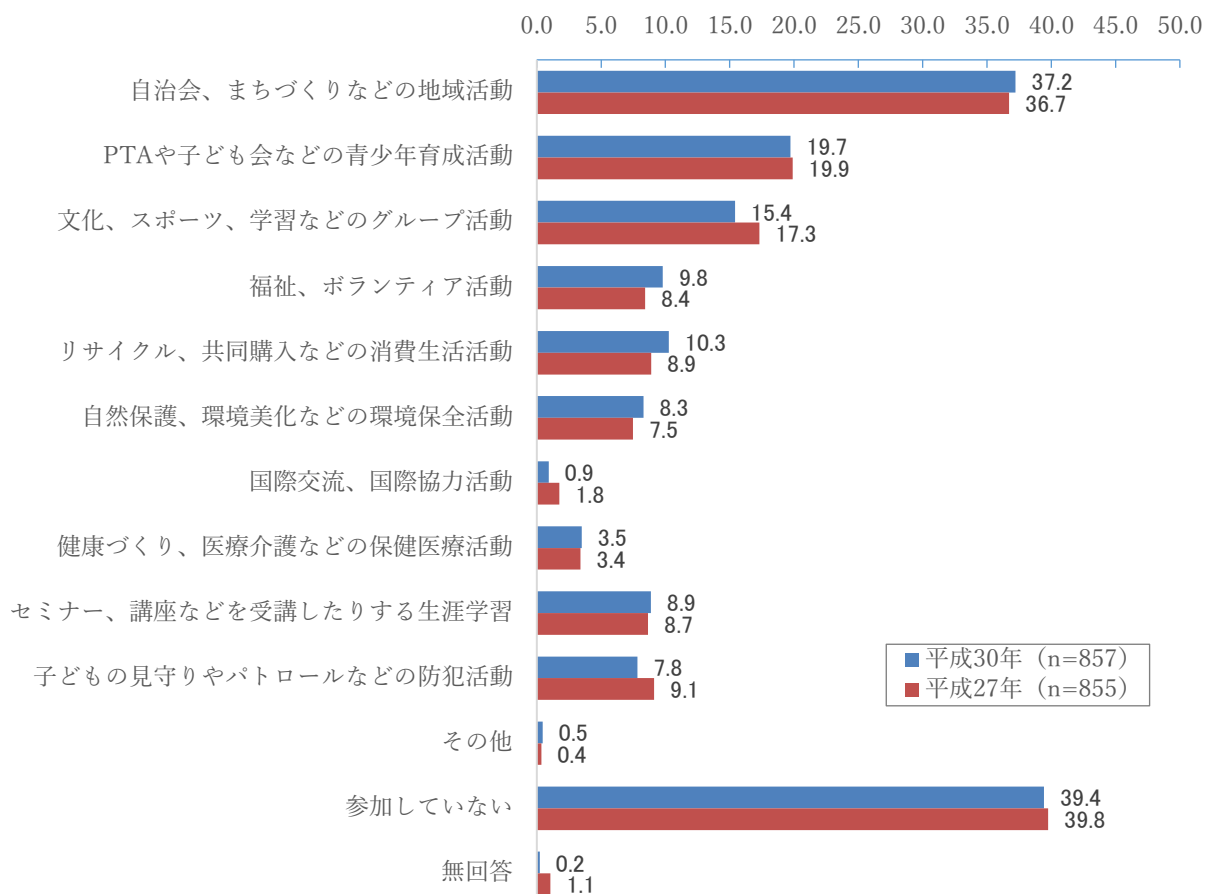
【問11】 次にあげるような活動に参加していますか。

【全体】

地域活動の参加状況については、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が37.2%で最も高く、次いで、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」が19.7%、「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」の15.4%などの順となっている。一方、「参加していない」は39.4%となっている。

経年比較をみると、大きな変化はないものの「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」や「子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動」などが減少傾向にある。

(%)



【第3次行動計画の評価目標】

項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度 (以下)
地域・社会活動に参加していない人の割合 (基本目標Ⅲ 施策の方向Ⅲ-1)	39.8%	39.4%	34.0% (以下)

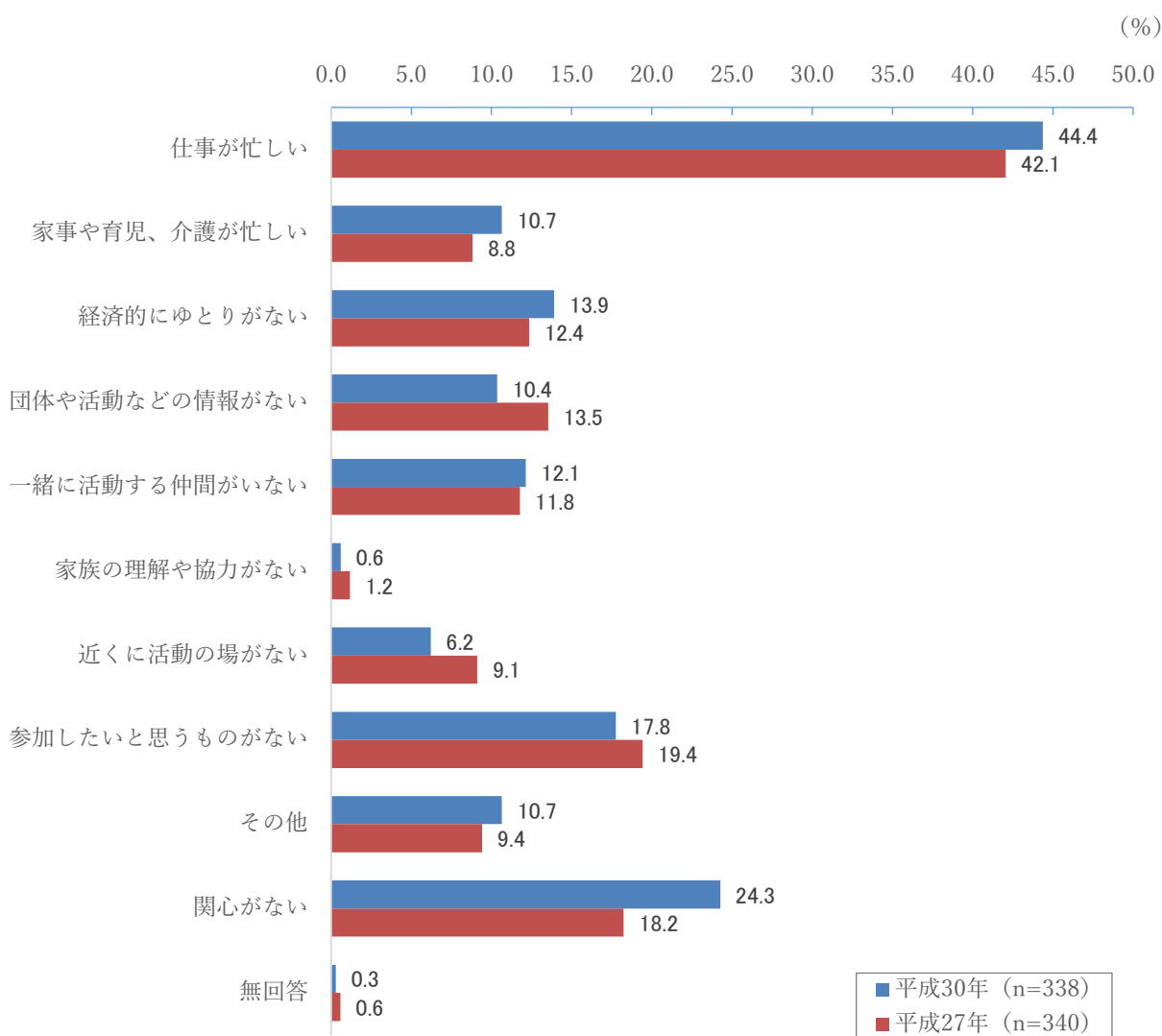
(1 - 1) 地域・社会活動に参加していない理由

【問12】 あなたが地域・社会活動に参加していないのはなぜですか。

【全体】

地域活動に「参加していない」と回答した338人に、参加していない理由を聞いたところ、「仕事が忙しい」が44.4%で最も高く、次いで、「関心がない」の24.3%、「参加したいと思うものがない」の17.8%、「経済的にゆとりがない」の13.9%などの順となっている。

経年比較をみると、「仕事が忙しい」、「関心がない」、「経済的にゆとりがない」は前回調査より増加傾向にあり、「関心がない」は前回調査より6.1ポイント増加している。一方、「近くに活動の場がない」、「参加したいと思うものがない」は減少傾向にあり、「団体や活動などの情報がない」については、前回調査より3.1ポイント減少している。



6. 男女共同参画の視点からの防災について

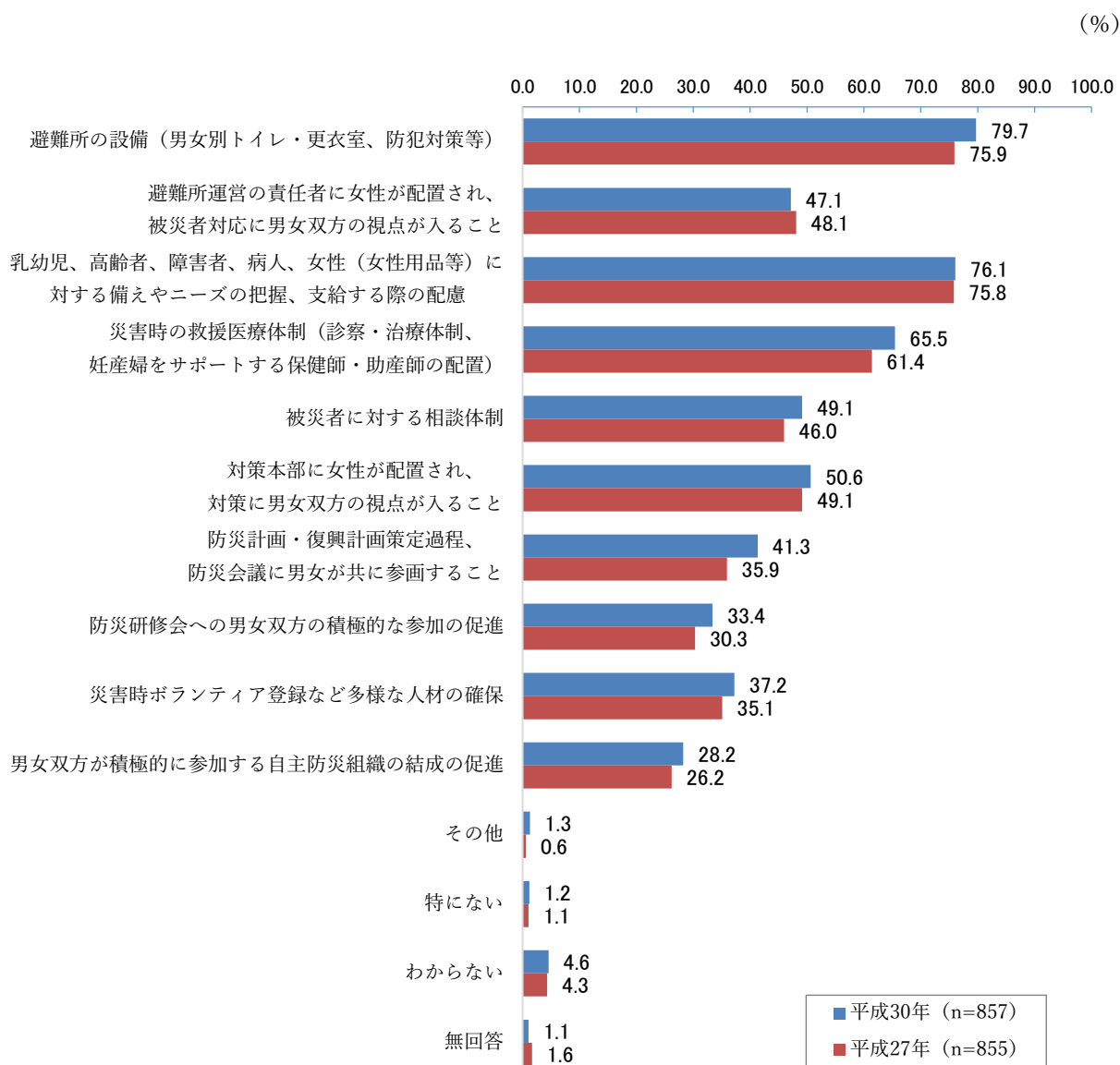
(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応

【問13】 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。

【全体】

防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要かについて、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）」が79.7%で最も高く、次いで、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の76.1%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の65.5%などの順となっている。

経年比較をみると、大きな変化はみられないが、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女が共に参画すること」は5.4ポイント増加している。



7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

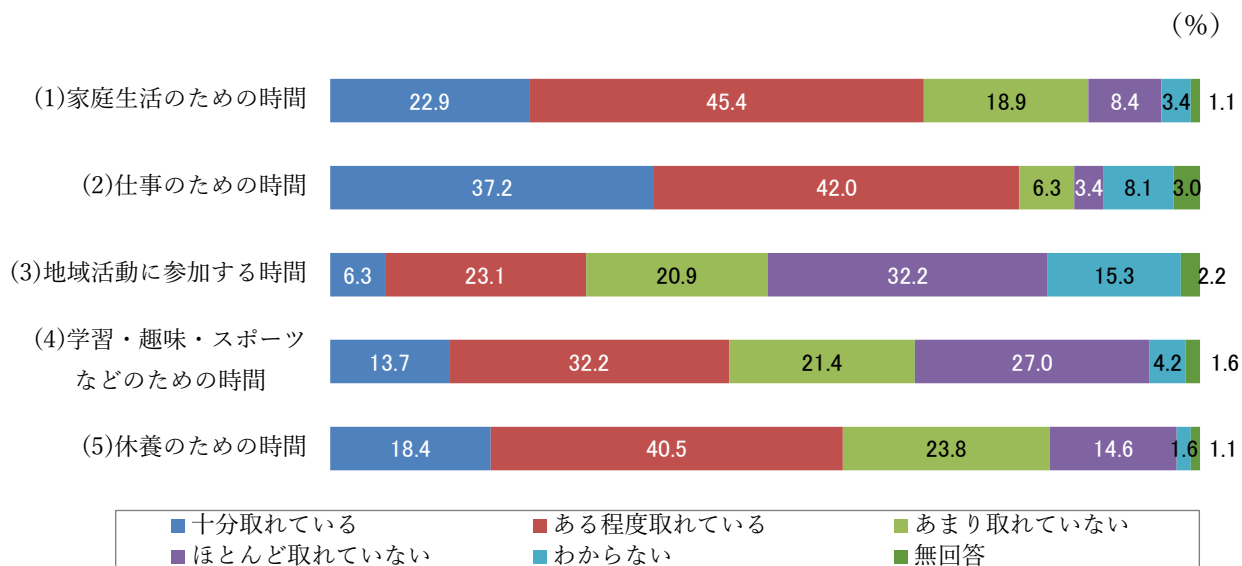
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度

【問14-1】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、満足する時間が取れていますか。

【全体】

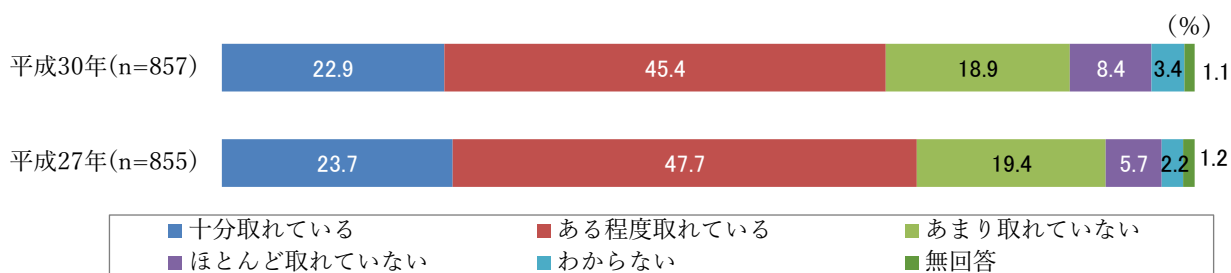
日常生活の満足度について、「十分取れている」と「ある程度取れている」を合わせた『取れている(計)』は、「仕事のための時間」が79.2%と最も高く、次いで、「家庭生活のための時間」の68.3%、「休養のための時間」の58.9%などの順になっている。

一方、「あまり取れていない」と「ほとんど取れていない」を合わせた『取れていない(計)』は、「地域活動に参加する時間」が53.1%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の48.4%などの順になっている。



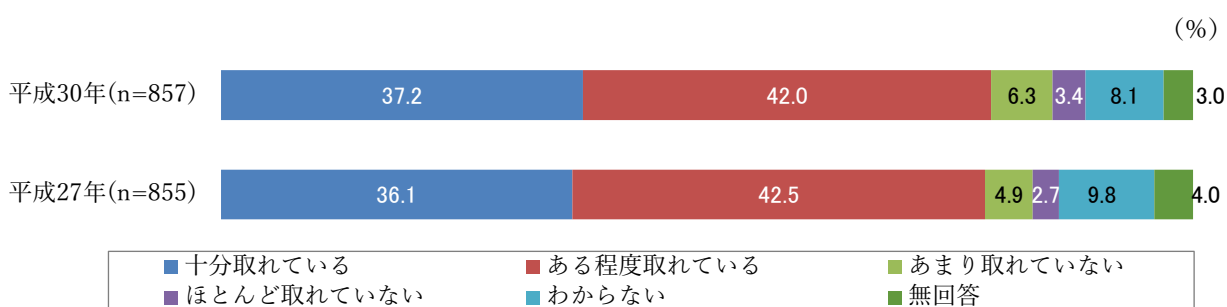
① 家庭生活のための時間

家庭生活のための時間において、『取れている（計）』は、68.3%で前回調査から3.1ポイント減少している。一方で、『取れていない（計）』は、27.3%で前回調査から2.2ポイント増加している。



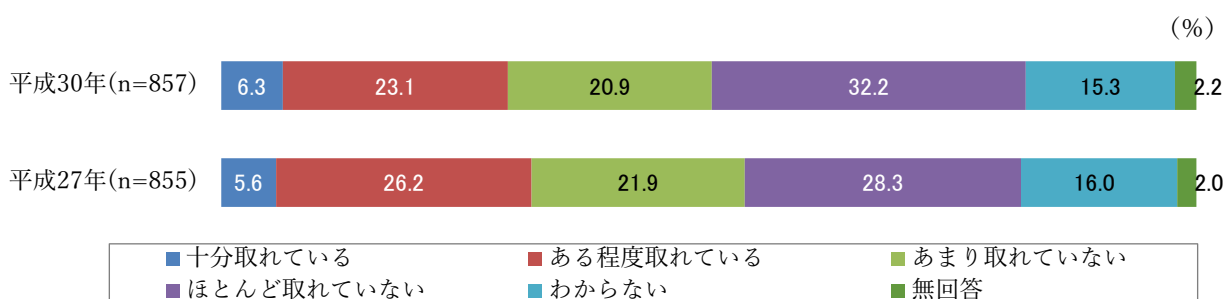
② 仕事のための時間

仕事のための時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は79.2%で、前回調査から0.6ポイント増加している。



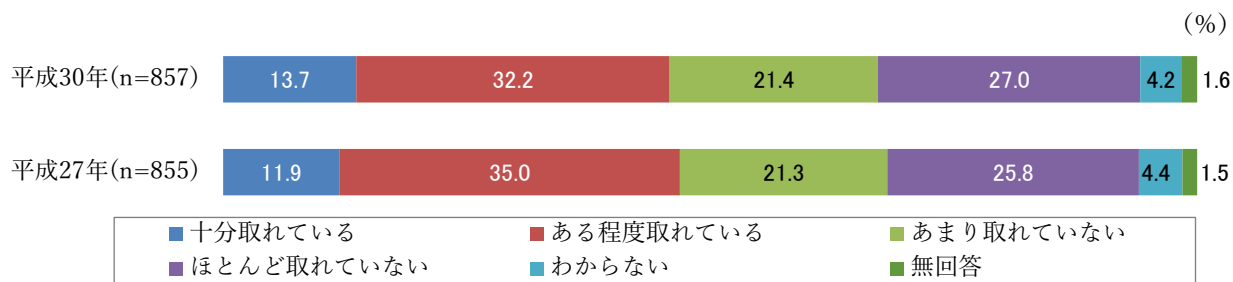
③ 地域活動に参加する時間

地域活動に参加する時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は29.4%で、前回調査から2.4ポイント減少している。



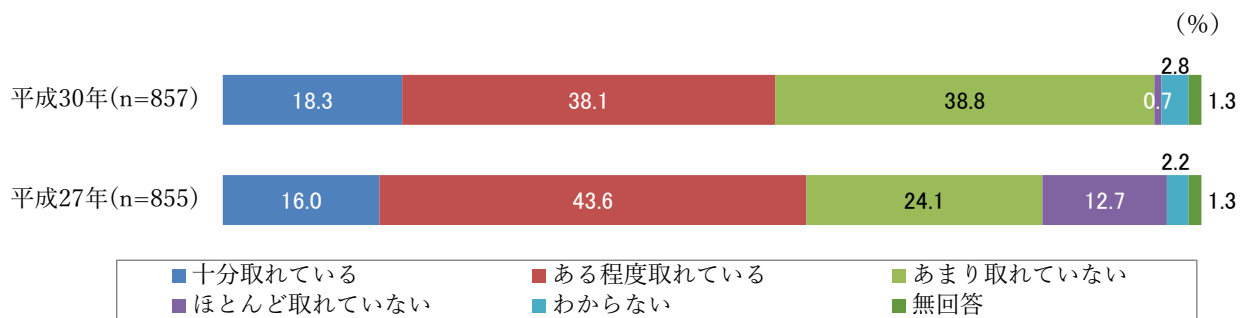
④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

学習・趣味・スポーツなどのための時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は45.9%で、前回調査から1.0ポイント減少している。



⑤ 休養のための時間

休養のための時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は56.4%で、前回調査から3.2ポイント減少している。



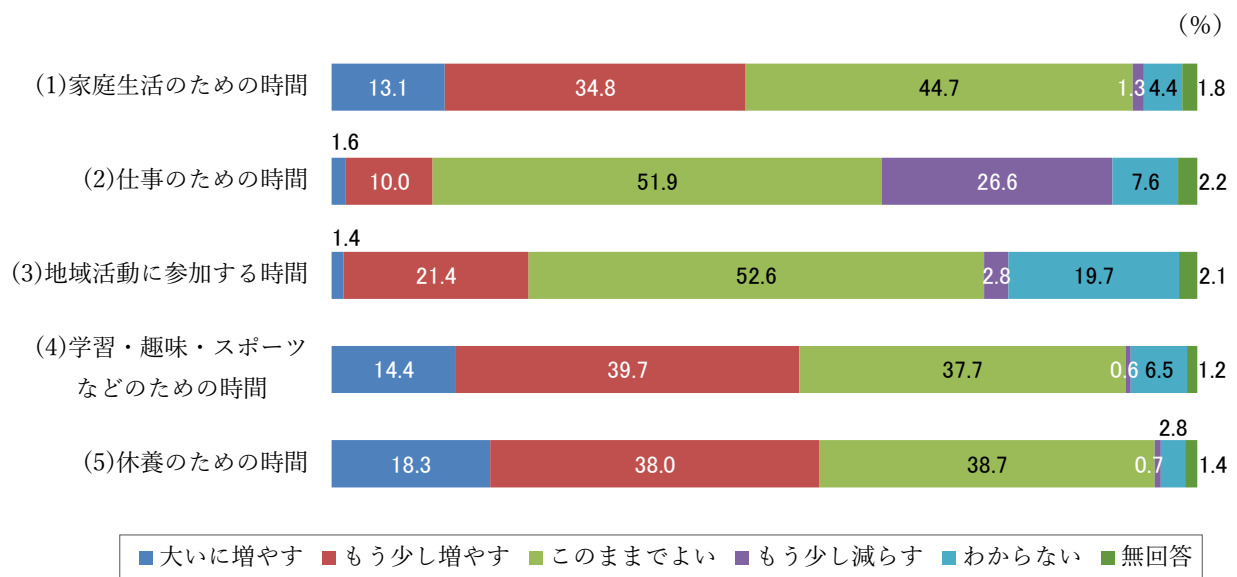
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想

【問14-2】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

【全体】

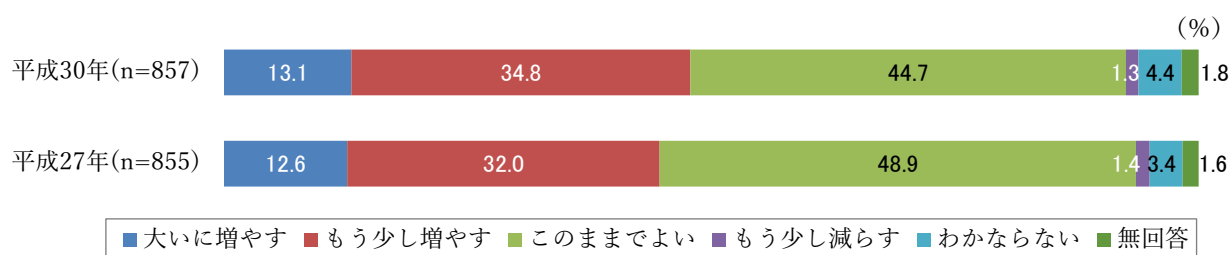
日常生活における理想の時間について、「大いに増やす」と「もう少し増やす」を合わせた『増やす(計)』は、「休養のための時間」が56.3%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の54.1%、「家庭生活のための時間」の47.9%などの順になっている。

一方、「仕事のための時間」は「もう少し減らす」が26.6%で、全項目の中で最も高い。



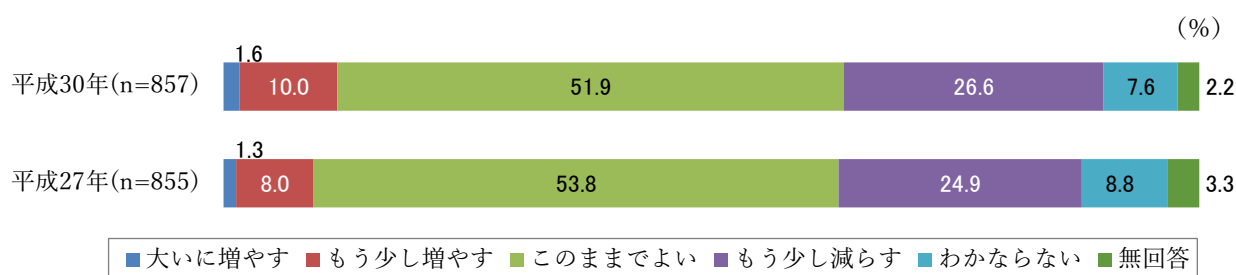
① 家庭生活のための時間

家庭生活のための時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は47.9%で、前回調査から3.3ポイント増加している。



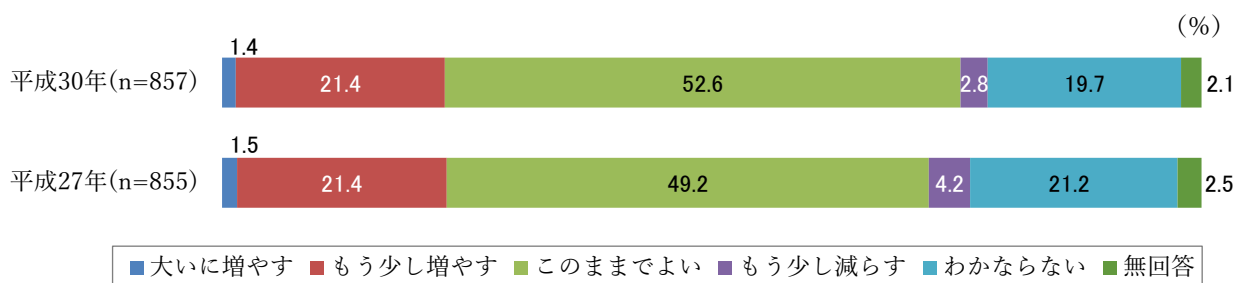
② 仕事のための時間

仕事のための時間において、「もう少し減らす」と考える人の割合は26.6%で、前回調査から1.7ポイント増加している。



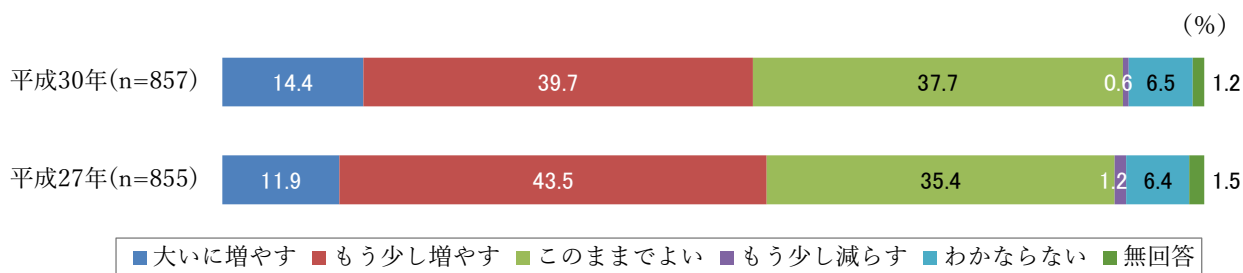
③ 地域活動に参加する時間

地域活動に参加する時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は22.8%で、前回調査から大きな変化はみられない。一方「もう少し減らす」は2.8%で1.4ポイント減少している。



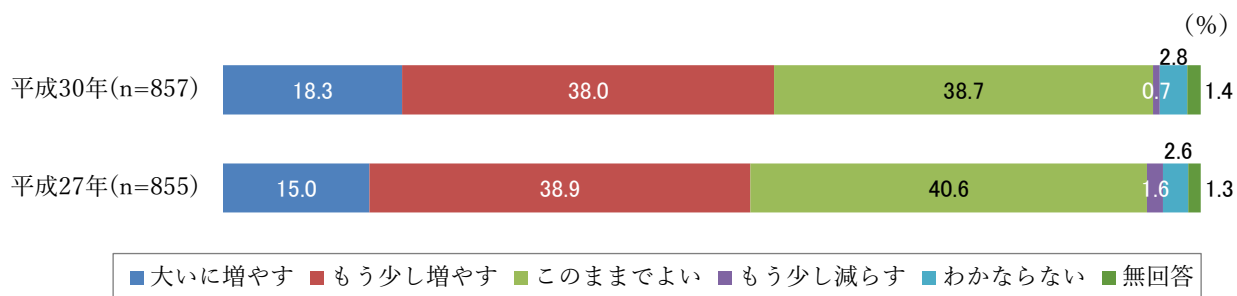
④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

学習・趣味・スポーツなどのための時間において、『増やす(計)』と考える人の割合は54.1%で、前回調査から1.3ポイント減少している。



⑤ 休養のための時間

休養のための時間において、『増やす(計)』と考える人の割合は56.3%で、前回調査から2.4ポイント増加している。

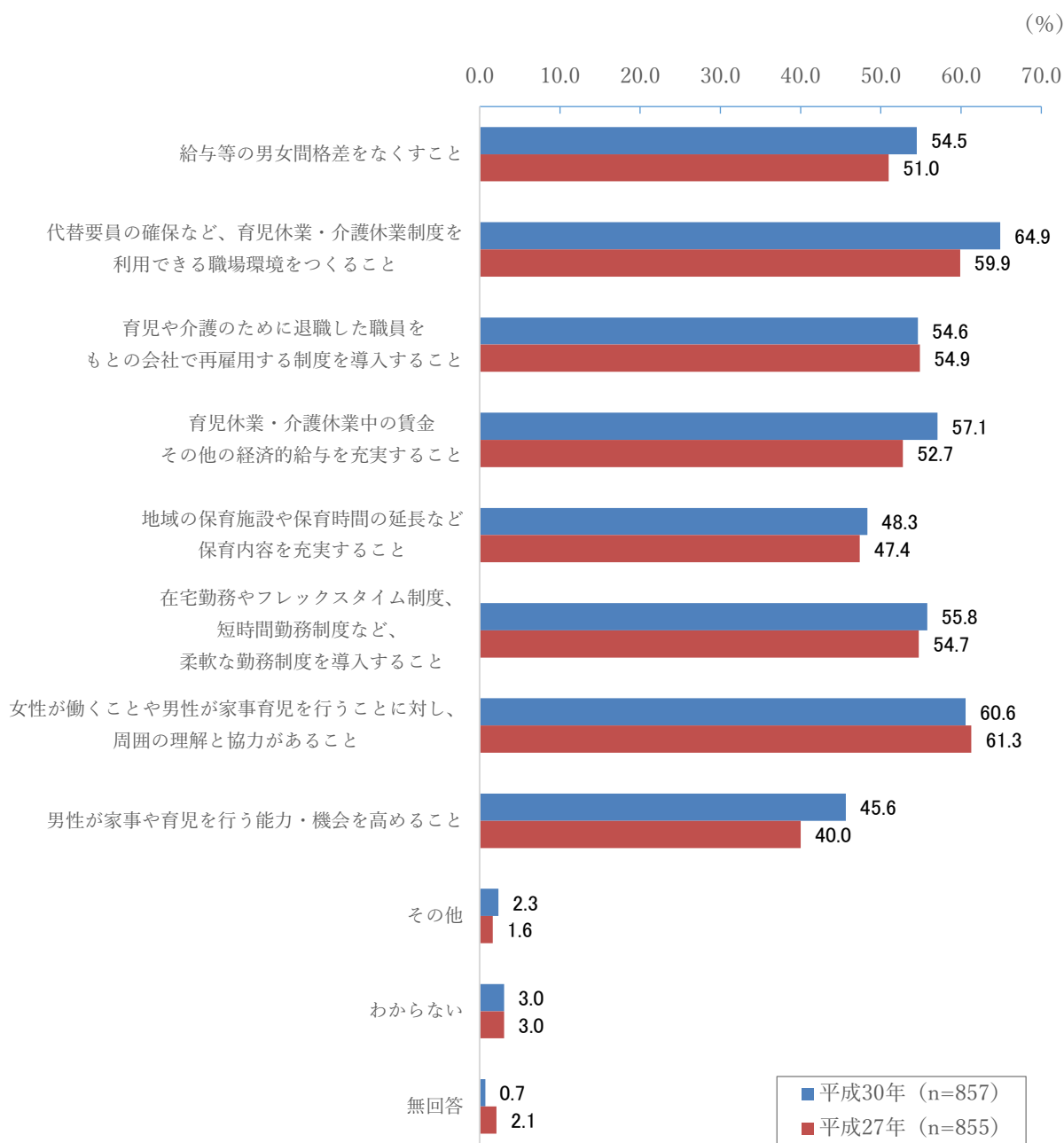


(3) 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと

【問15】 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。

【全体】

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件について、前回調査から大きな変化は見られない。「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が64.9%で最も高く、次いで、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」が60.6%、「育児休業・介護休業中の賃金、その他の経済的給与を充実すること」が57.1%などの順となっている。



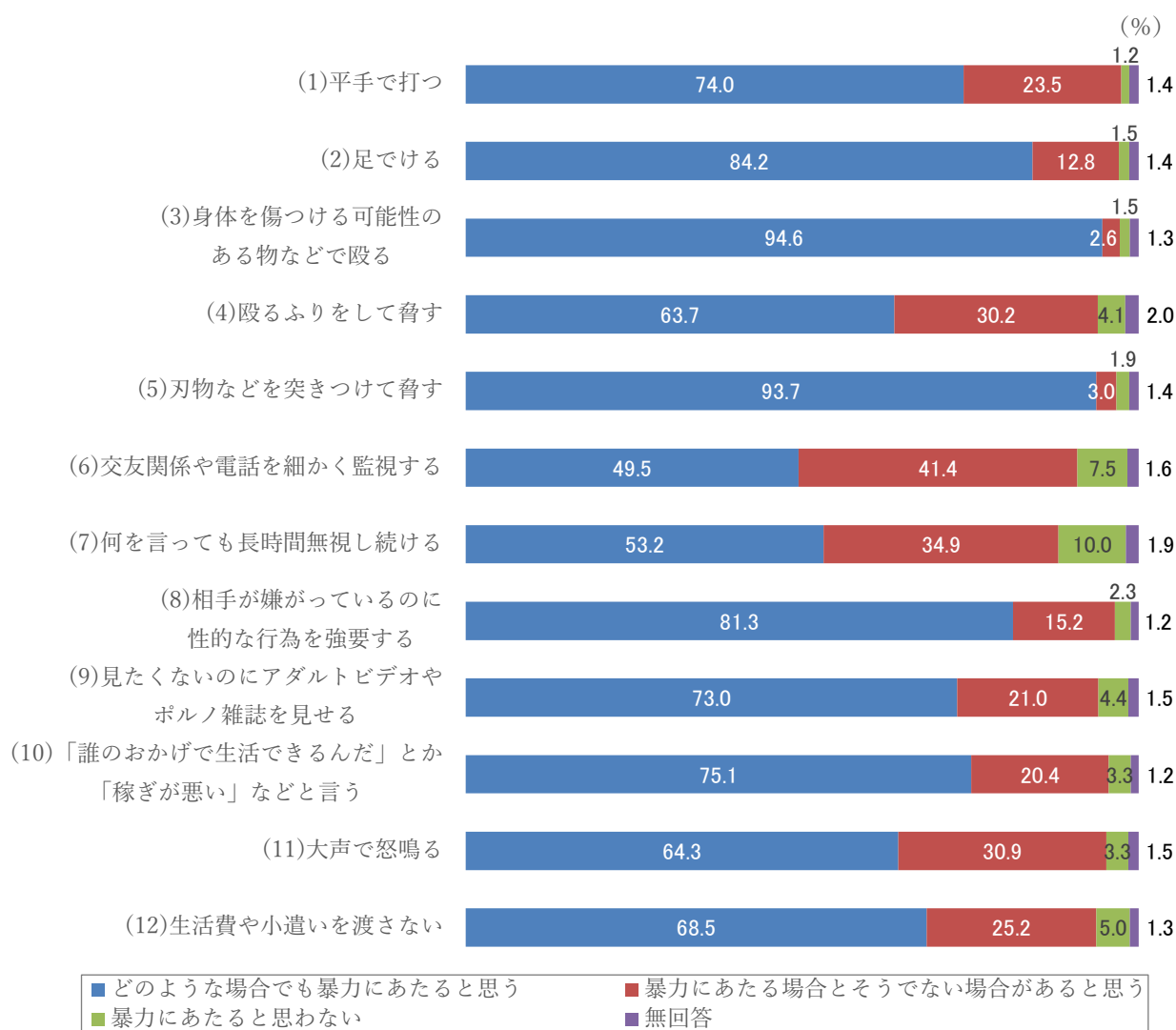
8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて

(1) 配偶者・パートナー間の暴力

【問16】 次の(1)～(12)のようなことが配偶者・パートナー・恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。

【全体】

配偶者・パートナー・恋人間での暴力に対する考えについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」で94.6%と最も高く、次いで、「刃物などを突きつけて脅す」が93.7%、「足でける」が84.2%などの順になっている。また、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は、「交友関係や電話を細かく監視する」で41.4%と最も高く、次いで、「何を言っても長時間無視し続ける」が34.9%、「大声で怒鳴る」が30.9%などの順になっている。

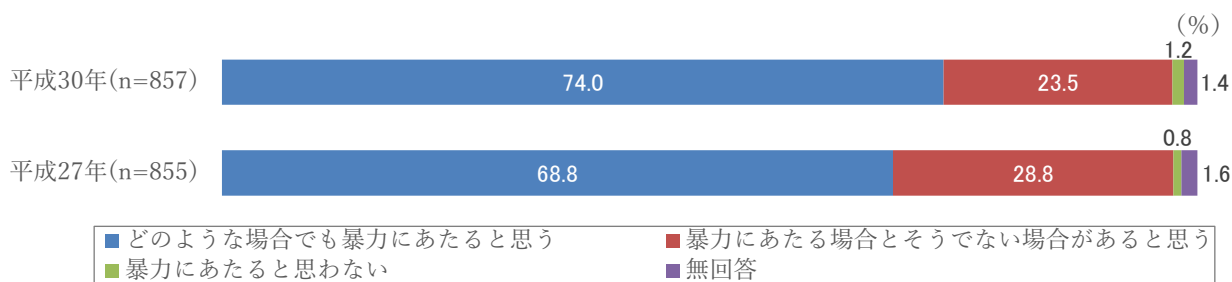


【第3次行動計画の評価目標】

項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度
夫婦間における「平手で打つ」を暴力として認識する人の割合（基本目標Ⅱ 施策の方向Ⅱ－2）	68.8%	74.0%	100.0%

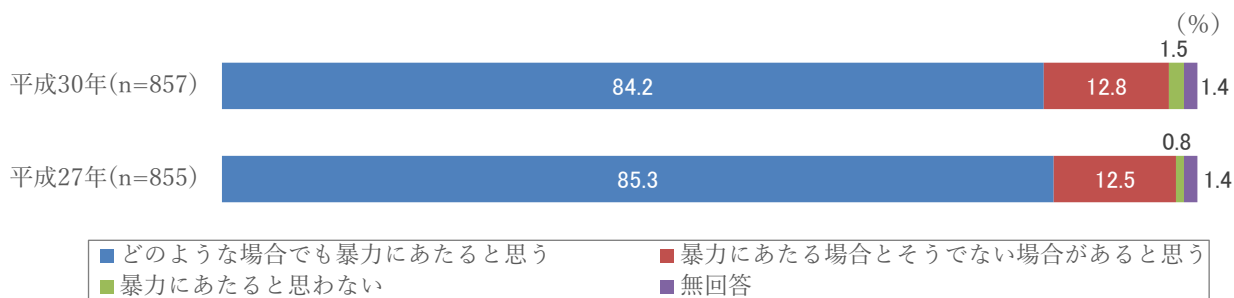
① 平手で打つ

平手で打つについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は74.0%で前回調査から5.2ポイント増加している。



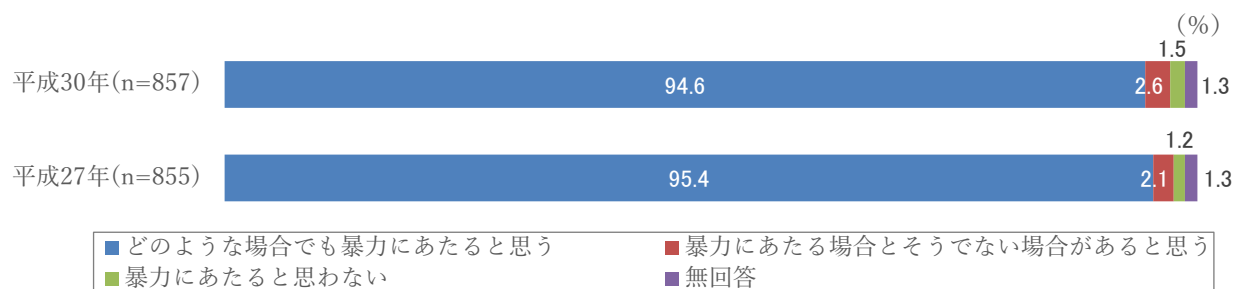
② 足でける

足でけるについて、「暴力にあたるかたそうでないかたがある」は12.8%で前回調査から0.3ポイント増加している。



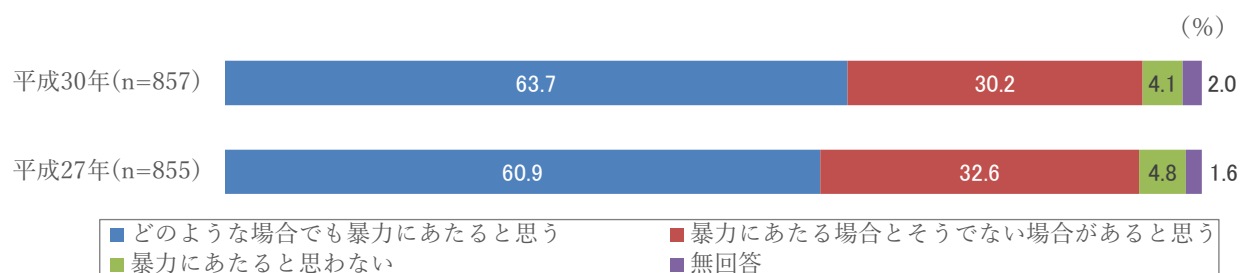
③ 身体を傷つける可能性のある物などで殴る

身体を傷つける可能性のある物などで殴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は94.6%で前回調査から0.8ポイント減少している。



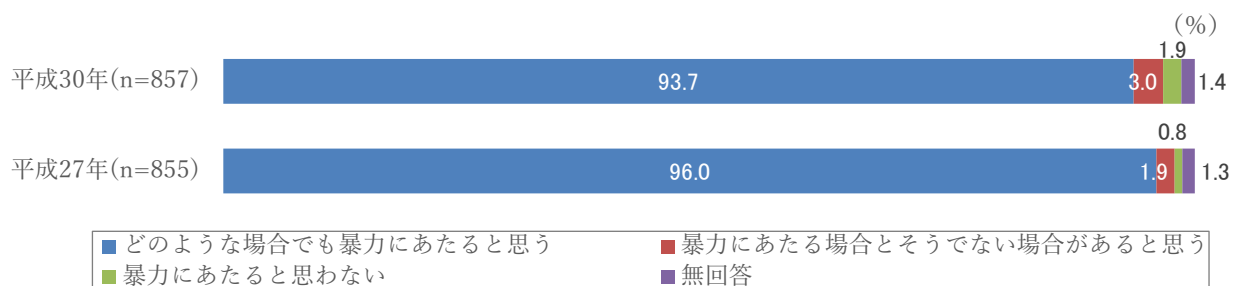
④ 殴るふりをして脅す

殴るふりをして脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は63.7%で前回調査から2.8ポイント増加し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は30.2%で前回調査から2.4ポイント減少している。



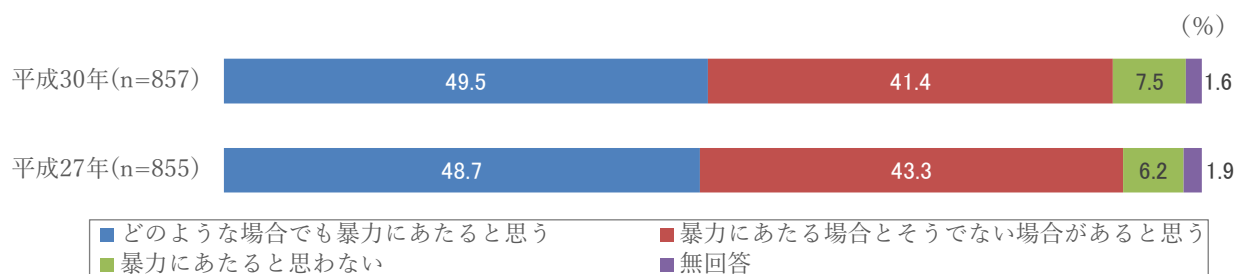
⑤ 刃物などを突きつけて脅す

刃物などを突きつけて脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は93.7%で前回調査から2.3ポイント減少し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は3.0%で前回調査から1.1ポイント増加している。



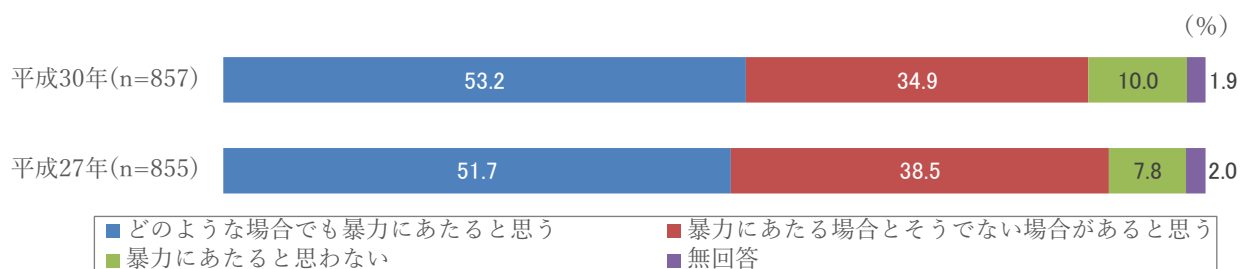
⑥ 交友関係や電話を細かく監視する

交友関係や電話を細かく監視するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は49.5%で前回調査から0.8ポイント増加し、一方で「暴力にあたると思わない」も7.5%で前回調査から1.3ポイント増加している。



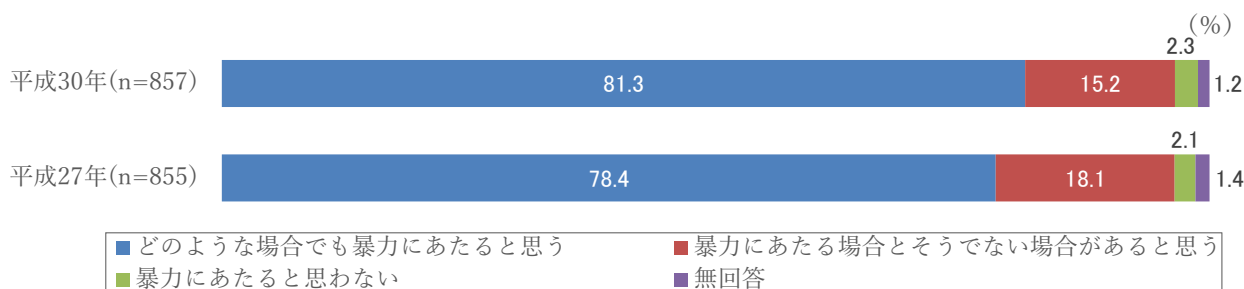
⑦ 何を言っても長時間無視し続ける

何を言っても長時間無視し続けるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は53.2%で前回調査から1.5ポイント増加し、一方で「暴力にあたると思わない」も10.0%で前回調査から2.2ポイント増加している。



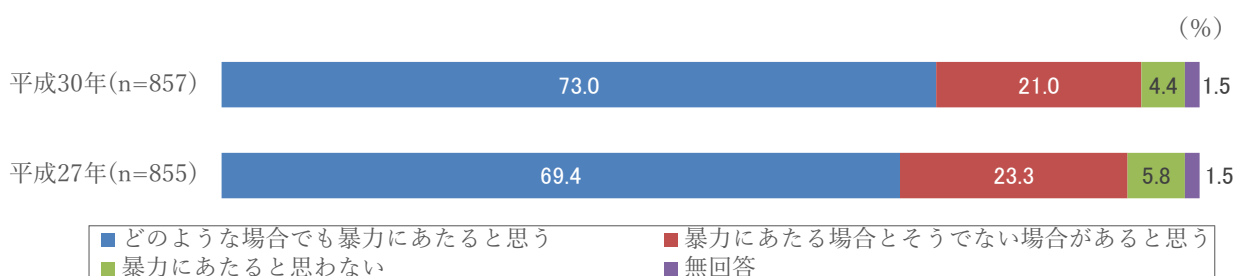
⑧ 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する

相手が嫌がっているのに性的な行為を強要するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は81.3%で前回調査から2.9ポイント増加している。



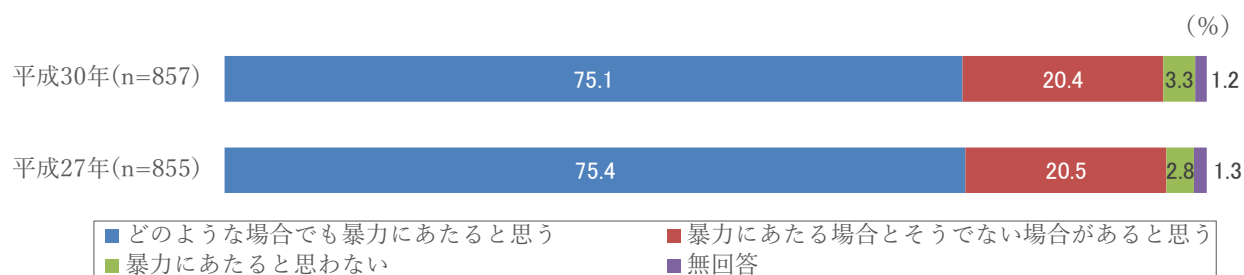
⑨ 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は73.0%で前回調査から3.6ポイント増加している。



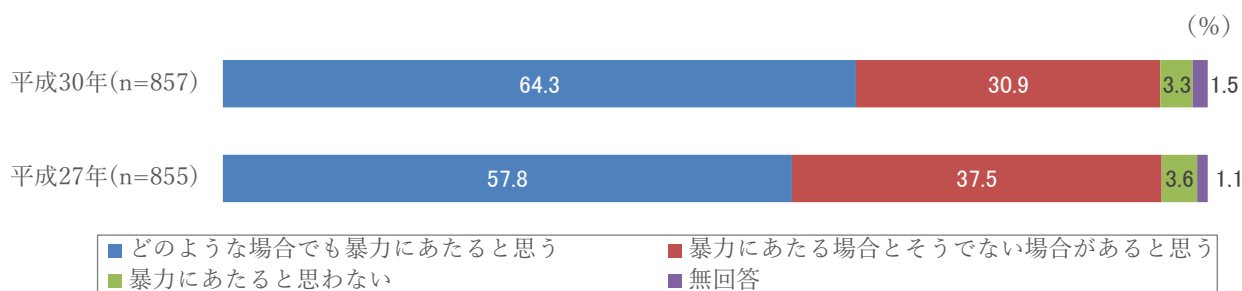
⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言う

「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言うについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は75.1%で前回調査から0.3ポイント減少し、「暴力にあたると思わない」は3.3%で前回調査から0.5ポイント増加している。



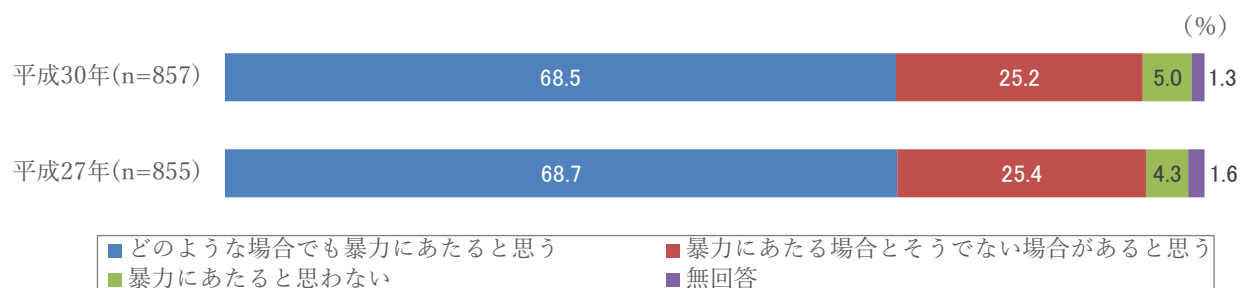
⑪ 大声で怒鳴る

大声で怒鳴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は64.3%で前回調査から6.5ポイント増加している。



⑫ 生活費や小遣いを渡さない

生活費や小遣いを渡さないについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は68.5%で前回調査から0.2ポイント減少しているが、「暴力にあたらぬ」は5.0%と前回調査から0.7ポイント増加している。

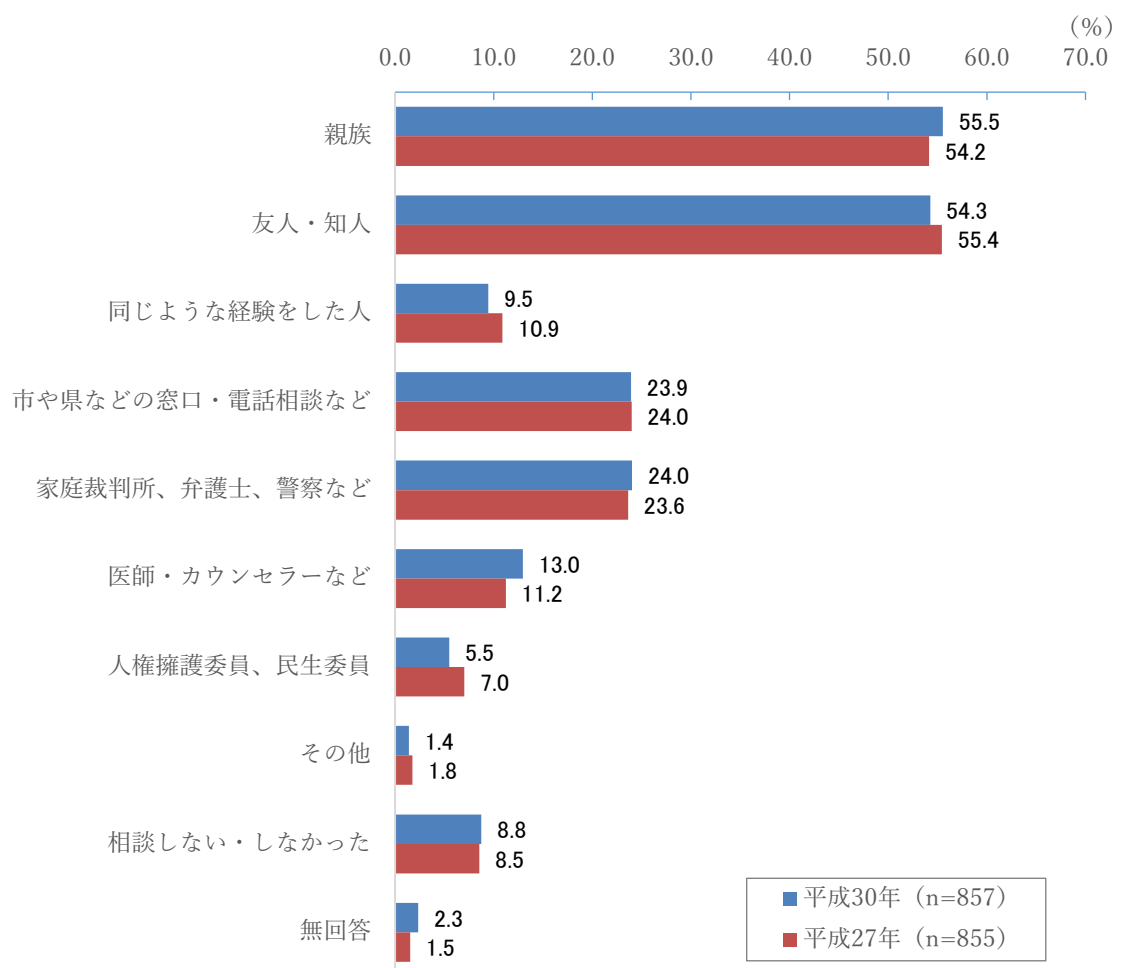


(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先

【問17-1】 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

【全体】

DVの相談先について、「親族」が55.5%で最も高く、次いで、「友人・知人」が54.3%となっている。経年比較をみると、「意思・カウンセラーなど」は13.0%で前回調査から1.8ポイント増加している。



(2-1) 暴力について相談しなかった理由

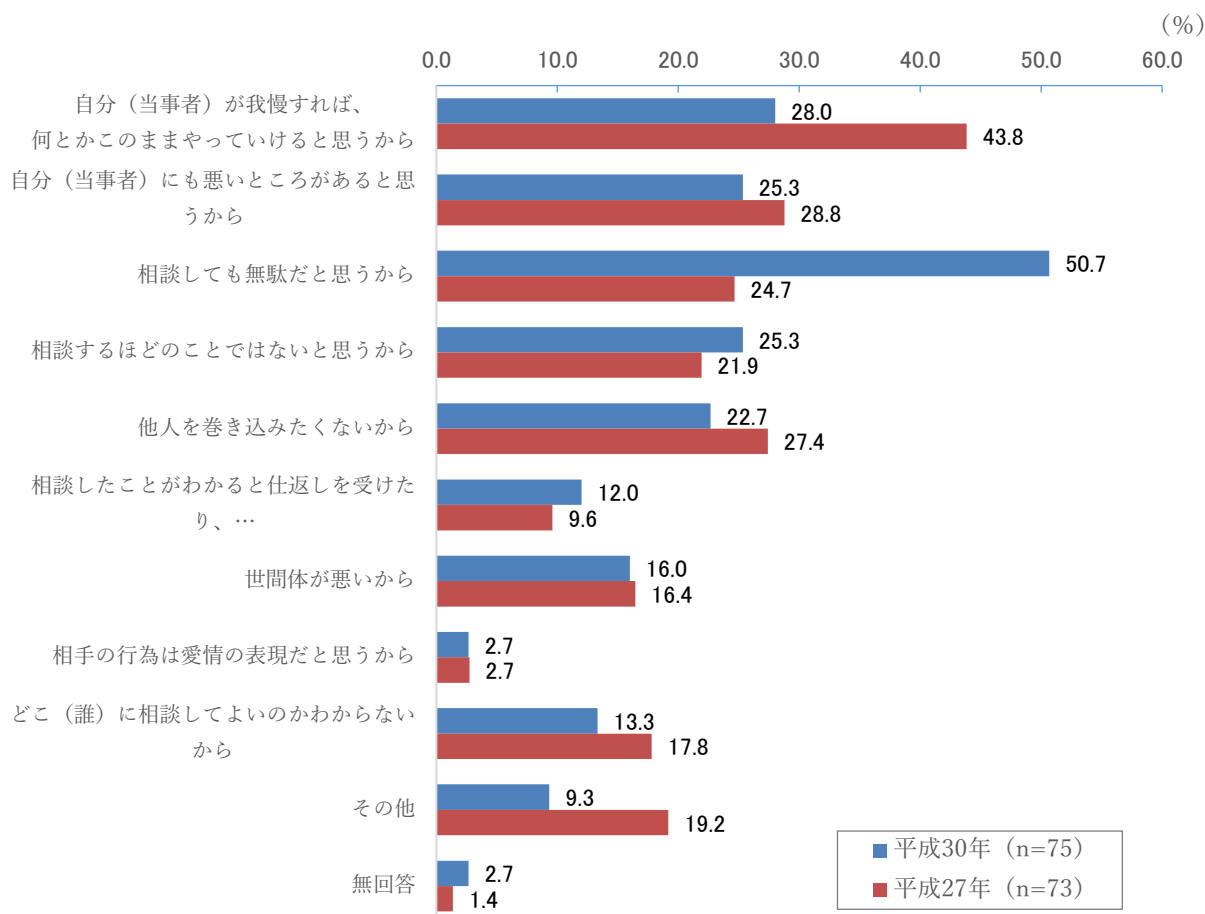
【問17-2】 <問17-1で、「9. 相談しない・しなかった」と回答した方に>
相談しない・しなかったのはなぜですか。

【全体】

暴力を相談しない理由について、「相談しても無駄だと思うから」が50.7%で最も高く、次いで、「自分が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」が28.0%、「自分にも悪いところがあると思うから」と「相談するほどのことではないと思うから」が25.3%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較をみると、前回調査から「相談しても無駄だと思うから」は26.0ポイント、「相談するほどのことではないと思うから」は3.4ポイント、それぞれ増加している。



【第3次行動計画の評価目標】

項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度 (以下)
暴力について「どこ(誰)に相談してよいのか分からない」と答えた人の割合(基本目標Ⅱ 施策の方向Ⅱ-1)	17.8%	13.3%	12.0%

(3) セクシャル・ハラスメントと感ずること

【問18】 次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。

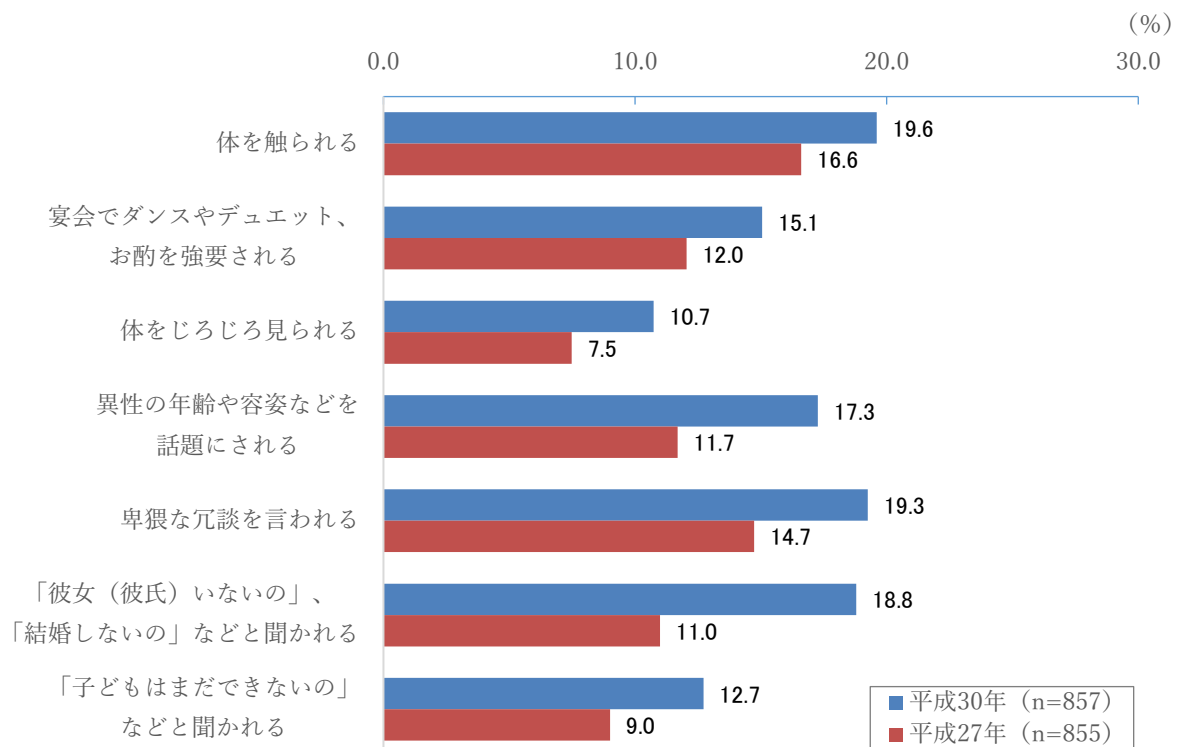
① 職場

【全体】

職場においてセクハラだと感ずることについて、「体を触られる」は19.6%と最も高く、次いで、「卑猥な冗談を言われる」は19.3%、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は18.8%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較をみると、前回調査から「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は7.8ポイント、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は5.6ポイント、それぞれ増加している。



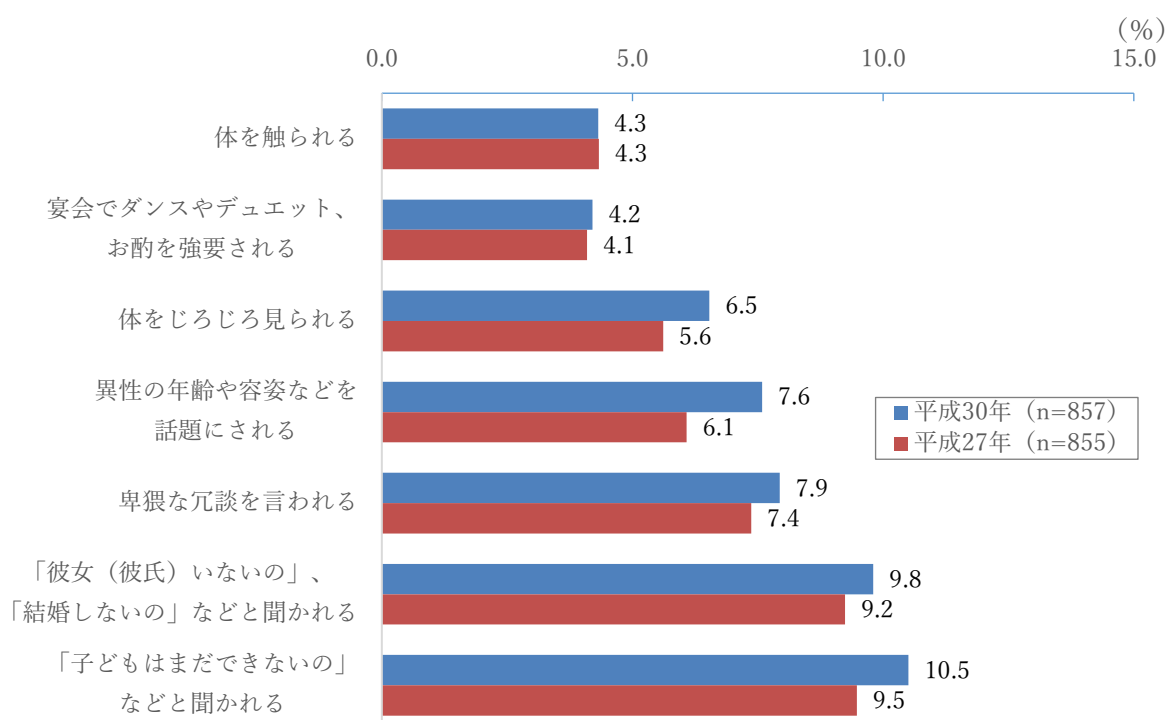
② 地域

【全体】

地域においてセクハラだと感じることにについて、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は10.5%と最も高く、次いで、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は9.8%、「卑猥な冗談を言われる」は7.9%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較をみると、「体を触られる」以外は全て前回調査から増加しており、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は1.5ポイント増加している。



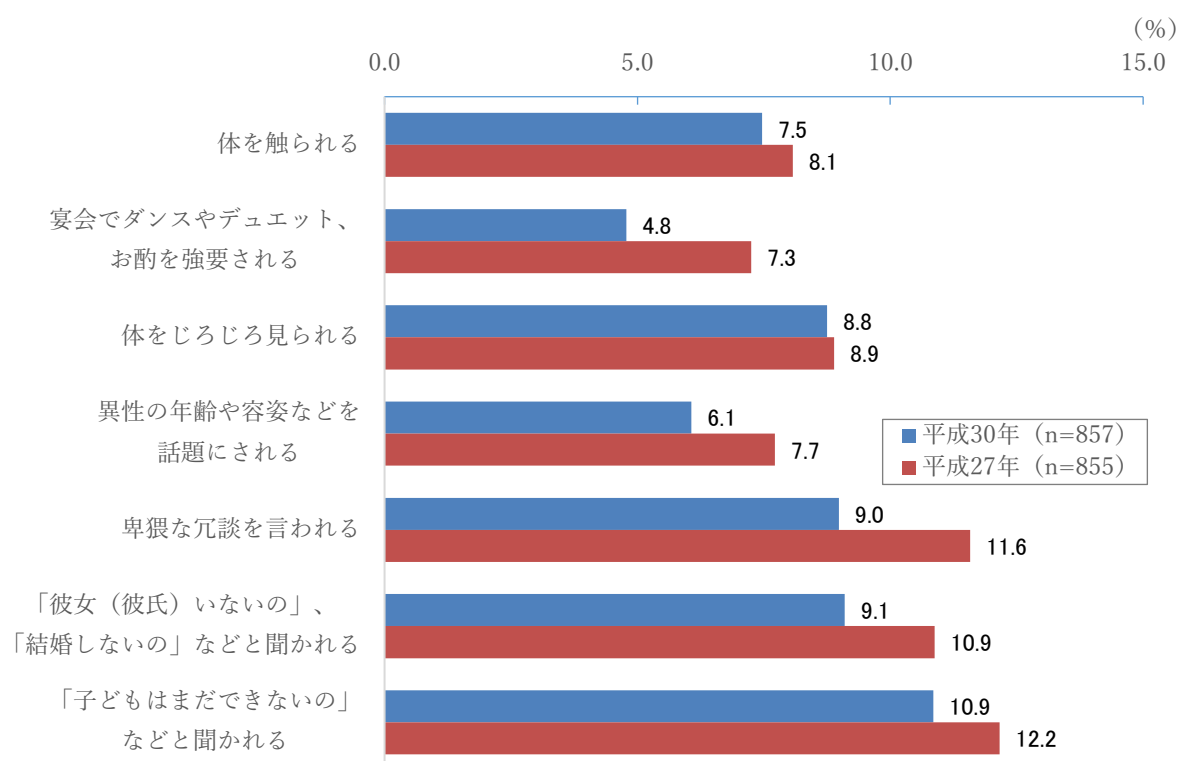
③ その他

【全体】

その他においてセクハラだと感じることについて、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は10.9%と最も高く、次いで、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は9.1%、「卑猥な冗談を言われる」は9.0%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較をみると、全て前回調査から減少しており、「卑猥な冗談を言われる」は2.6ポイント減少している。



9. 男女共同参画社会づくりのための取組について

(1) 市が力を入れるべき取組

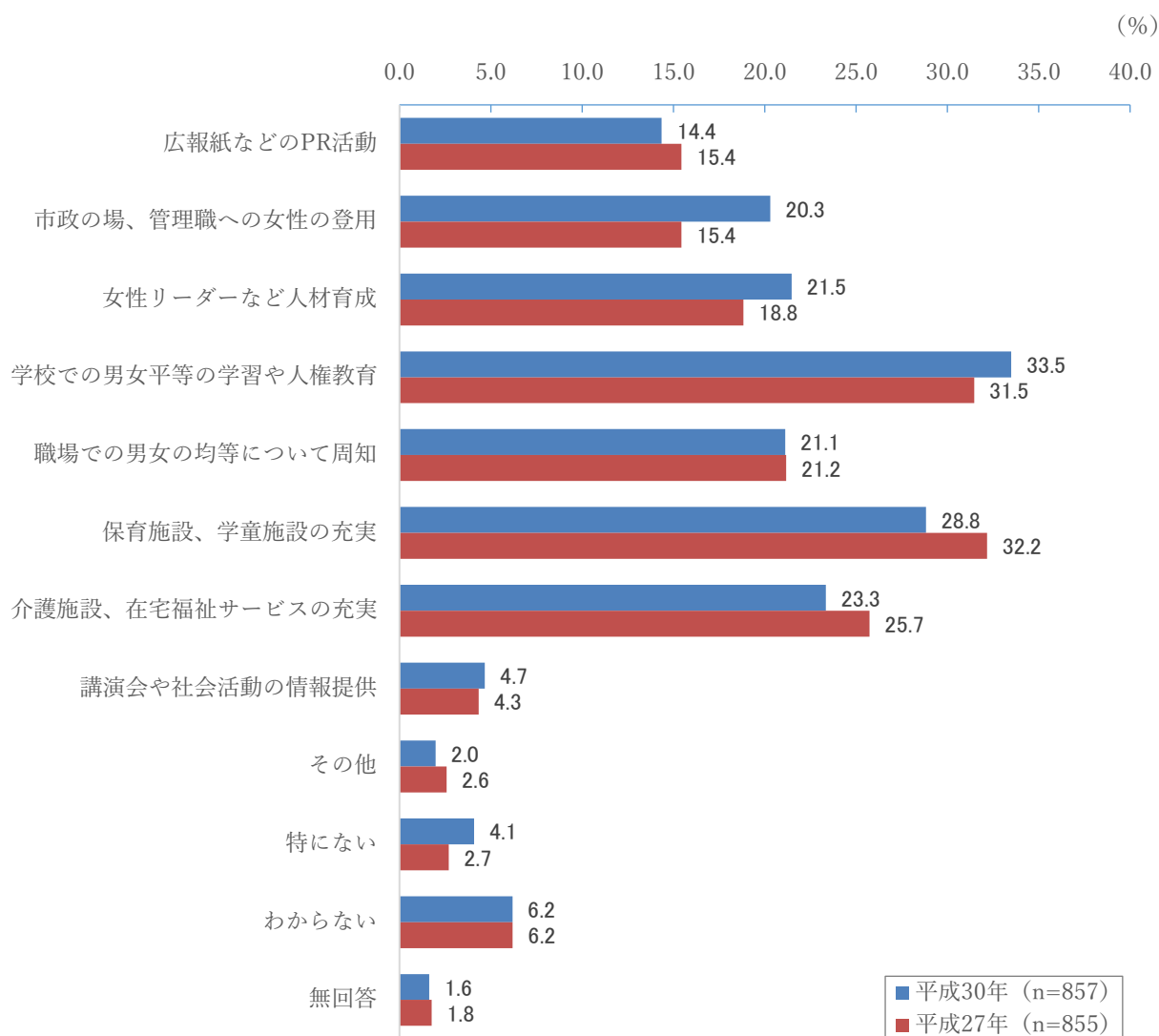
【問 19】 男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

【全体】

市が今後力を入れていくべきことについて、「学校での男女平等の学習や人権教育」が 33.5%で最も高く、次いで、「保育施設、学童施設の充実」は 28.8%、「介護施設、在宅サービスの充実」は 23.3%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較をみると、「市政の場、管理職への女性の登用」は前回調査から 4.9 ポイント増加している。一方、「保育施設、学童施設の充実」は前回調査から 3.4 ポイント、「介護施設、サービスの充実」は 2.4 ポイント、それぞれ減少している。



(2) 企業や職場での必要な取組

【問 20】 男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。

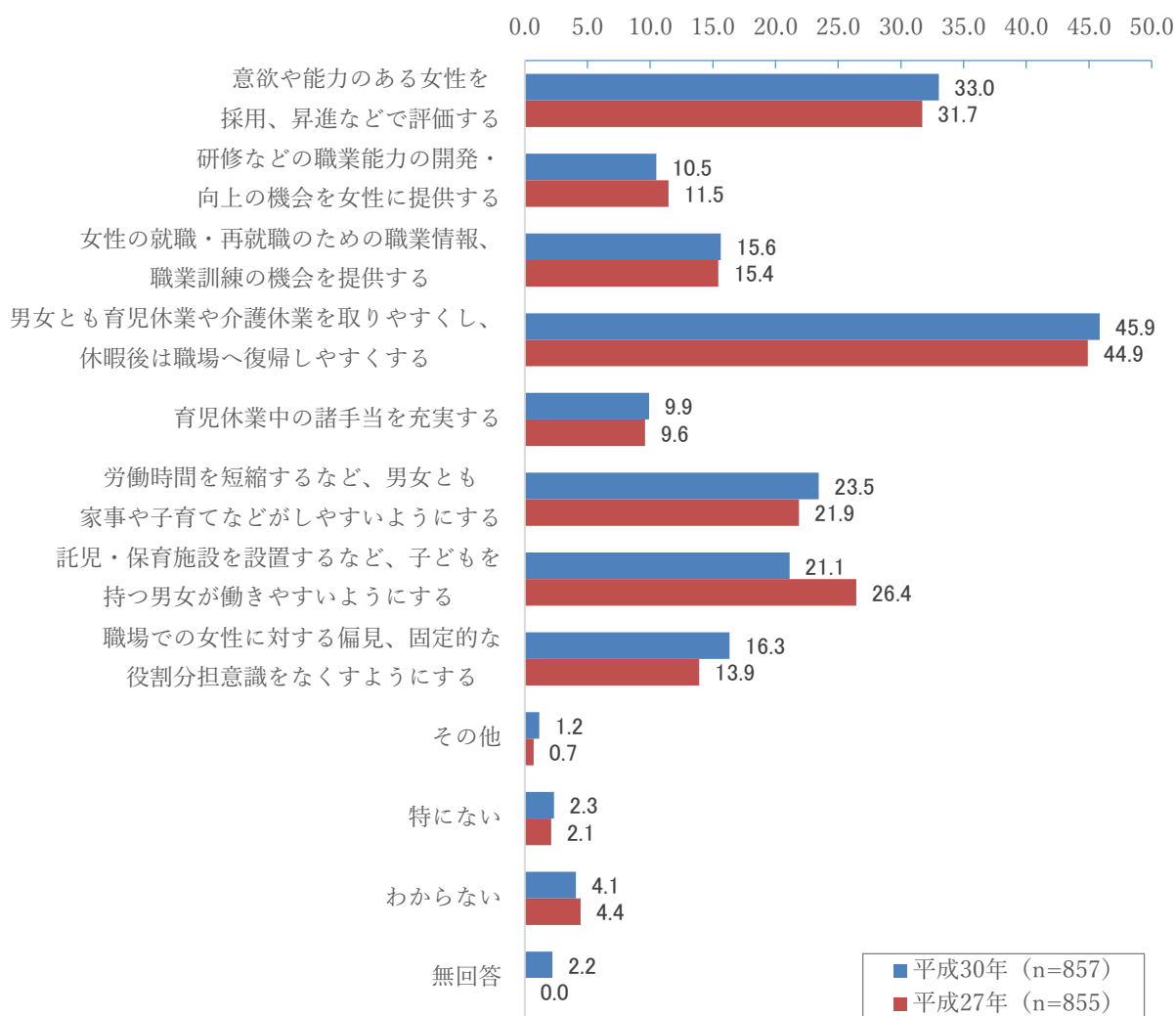
【全体】

男女共同参画社会を実現するために企業などの職場が力を入れるべきことについて、「男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休暇後は、職場へ復帰しやすくする」は45.9%と最も高く、次いで、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は33.0%、「労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする」は23.5%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較すると、「職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする」は前回調査から2.4ポイント、「労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする」は1.6ポイントそれぞれ増加している。

(%)



(3) 私たち自身が必要な取組

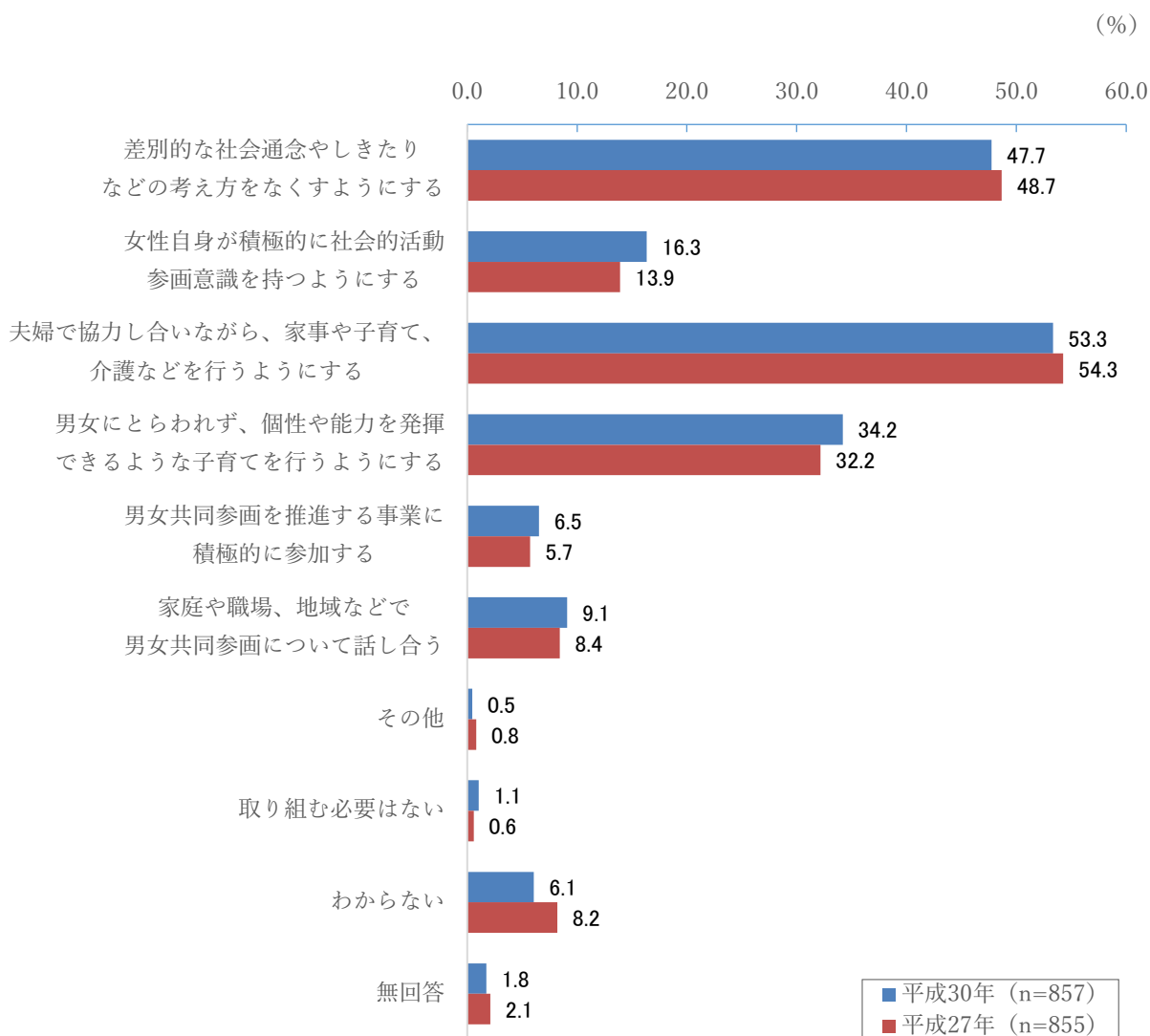
【問 21】 男女共同参画参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

男女共同参画社会を実現するために私たち自身が必要な取組みについて、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は53.3%で最も高く、次いで、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」は47.7%、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は34.2%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較すると、「女性自身が積極的に社会的活動参画意識を持つようにする」は2.4ポイント、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は2.0ポイント、前回調査よりそれぞれ増加している。一方、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」と「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」はそれぞれ前回調査から1.0ポイント減少している。



(4) 市の施策の認知度

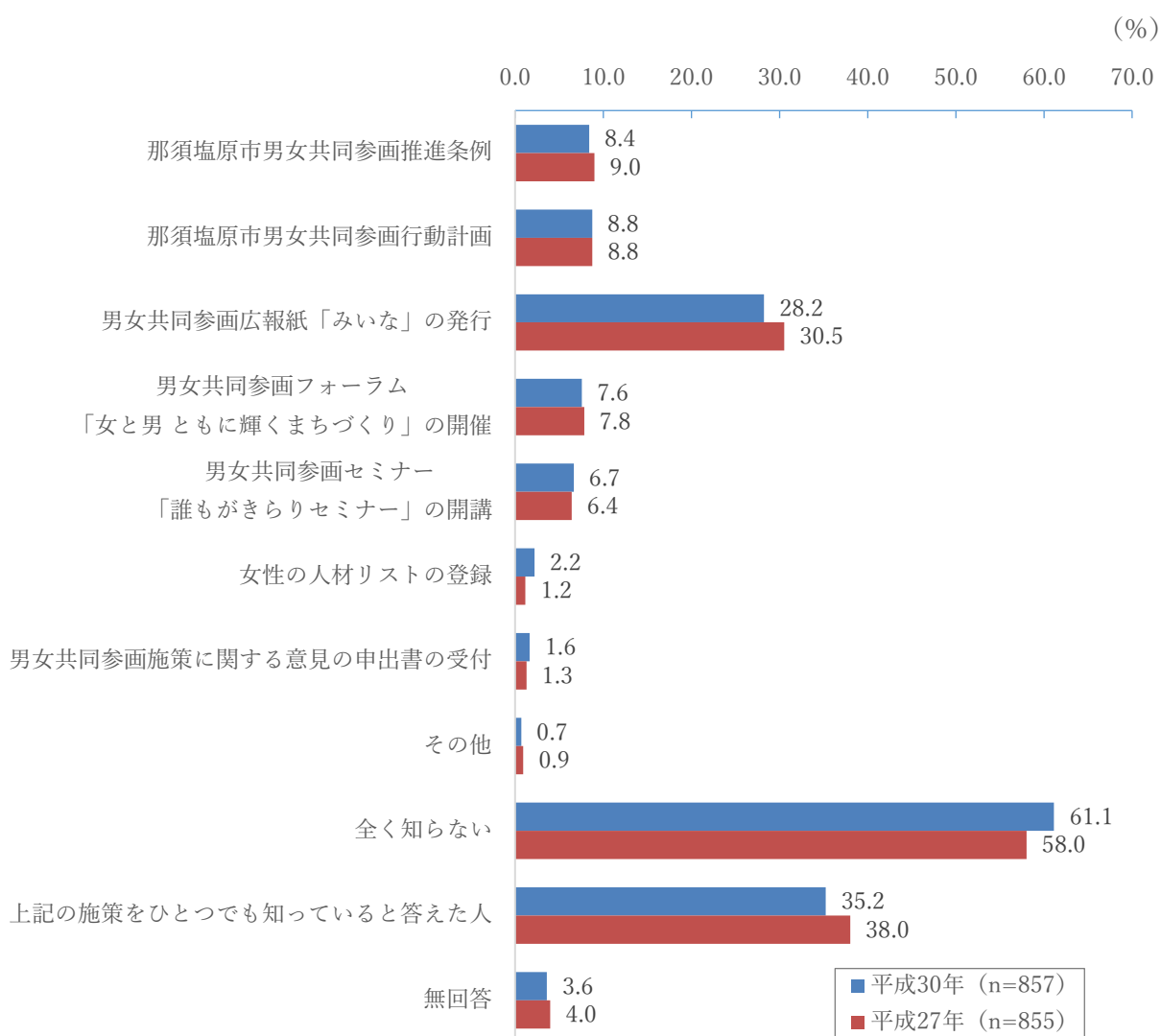
【問 22】 市で取り組んでいる次の男女共同参画施策を知っていますか。

【全体】

市で取り組んでいる男女共同参画施策について、「男女共同参画広報紙『みいな』の発行」は 28.2%で最も高く、その他の項目は1割を満たしていない。

【経年比較】

経年比較すると、「女性の人材リストの登録」は前回調査から 1.0 ポイント増加しているが、「男女共同参画広報紙『みいな』の発行」は 2.3 ポイント減少している。



【第3次行動計画の評価目標】

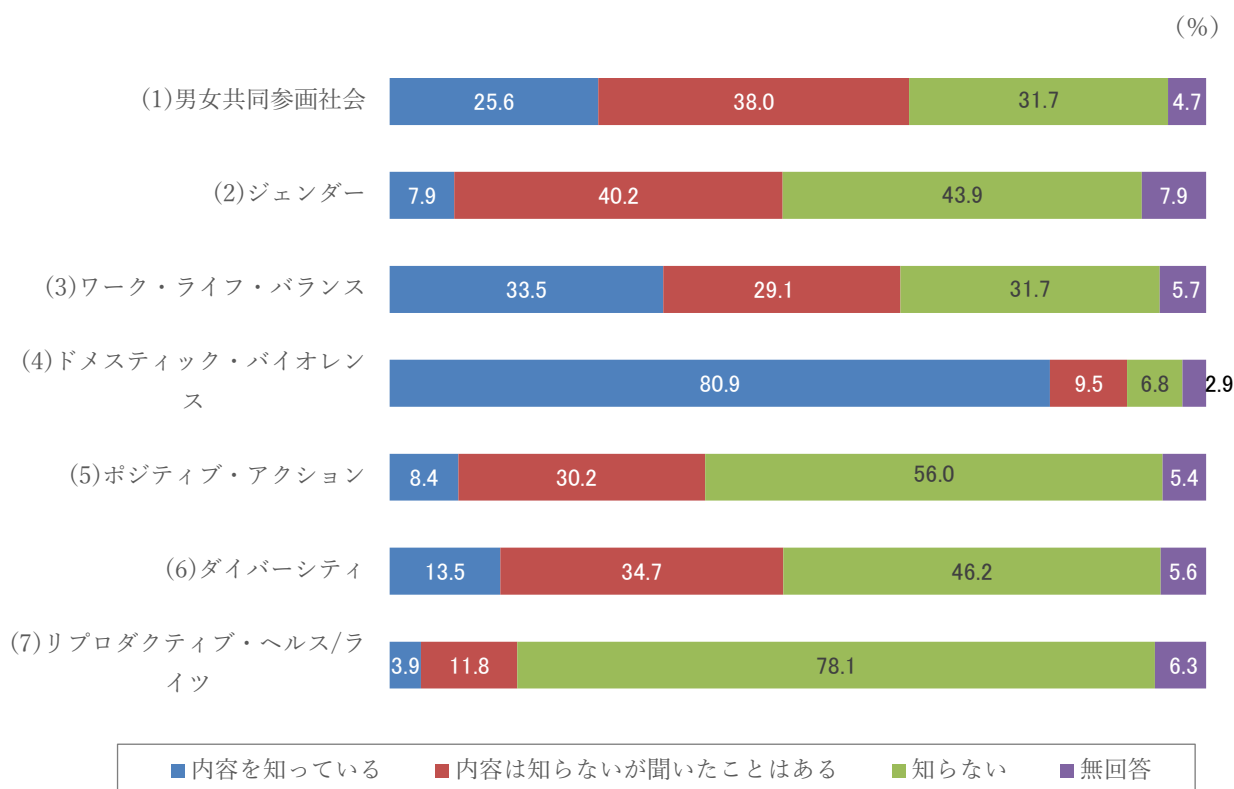
項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度
男女共同参画広報紙「みいな」の認知度 (基本目標 I 施策の方向 I - 1)	30.5%	28.2%	33.5%

(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度

【問 23】 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。

【全体】

男女共同参画に関する言葉の認知度について、「内容を知っている」は「ドメスティック・バイオレンス」が 80.9%で最も高く、次いで、「ワーク・ライフ・バランス」が 33.5%などの順になっている。一方、「知らない」は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が 78.1%で最も高く、次いで、「ポジティブ・アクション」が 56.0%などの順になっている。



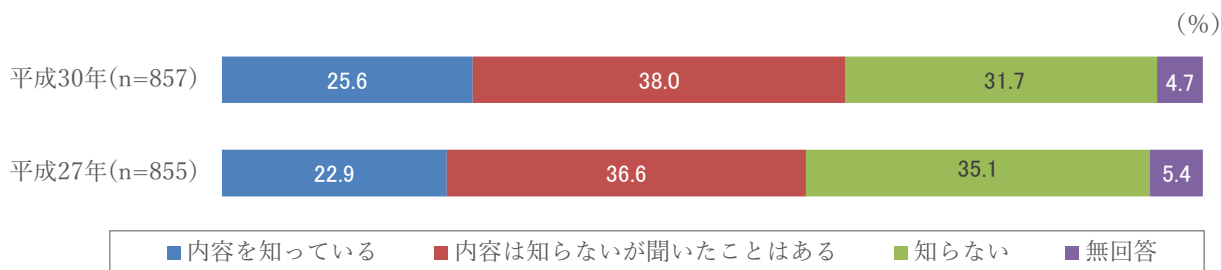
【第3次行動計画の評価目標】

項目	基準値 (H27)	現状 (H30)	目標値 2021年度
「ワーク・ライフ・バランスの内容を知っている人の割合 (基本目標 I 施策の方向 I - 2)	24.4%	33.5%	33.5%

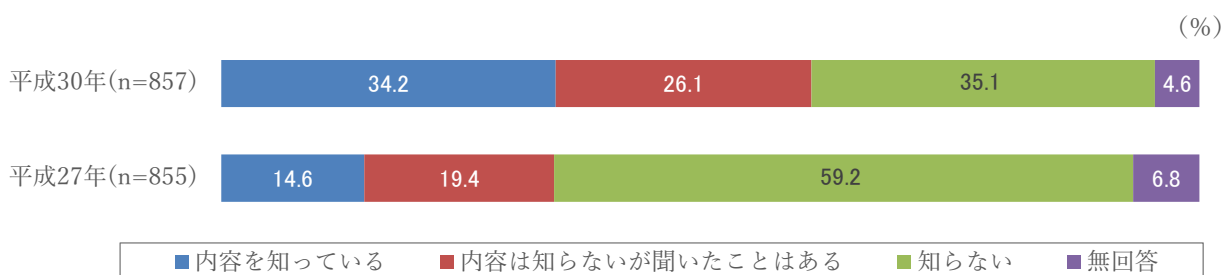
【経年比較】

経年比較すると、「内容を知っている」は7項目中6項目で前回調査より高くなっている。特に「ジェンダー」は前回調査より19.6ポイント高くなっている。

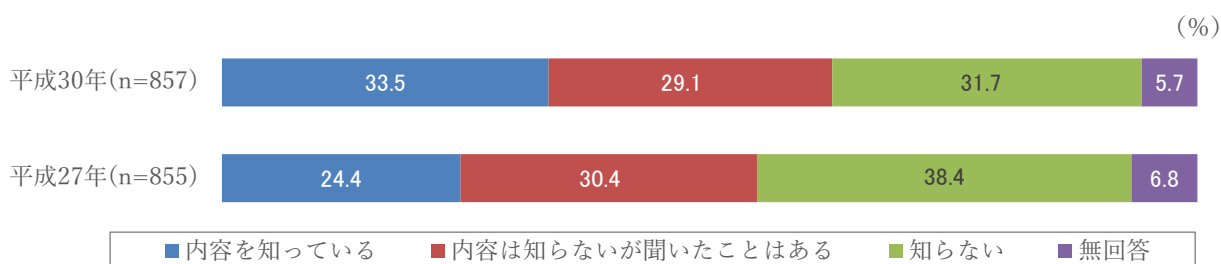
① 男女共同参画社会



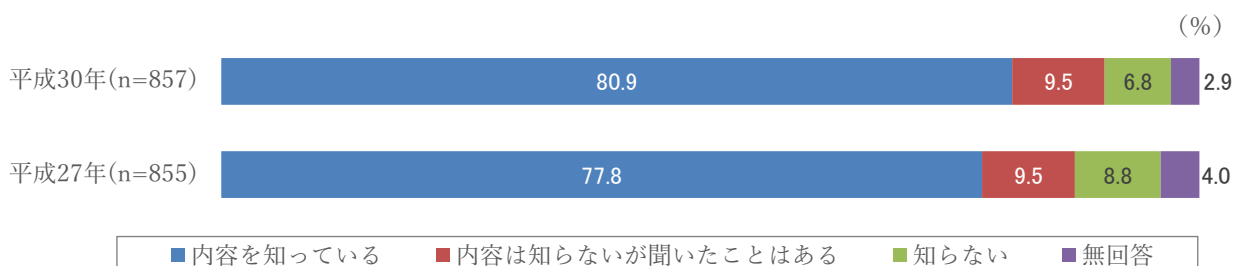
② ジェンダー



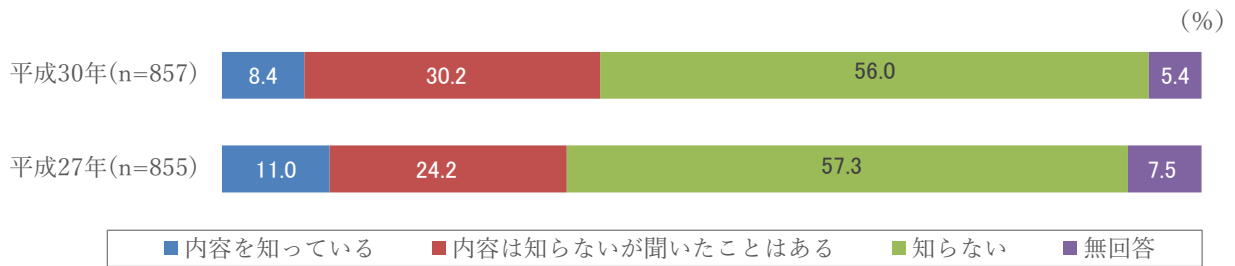
③ ワーク・ライフ・バランス



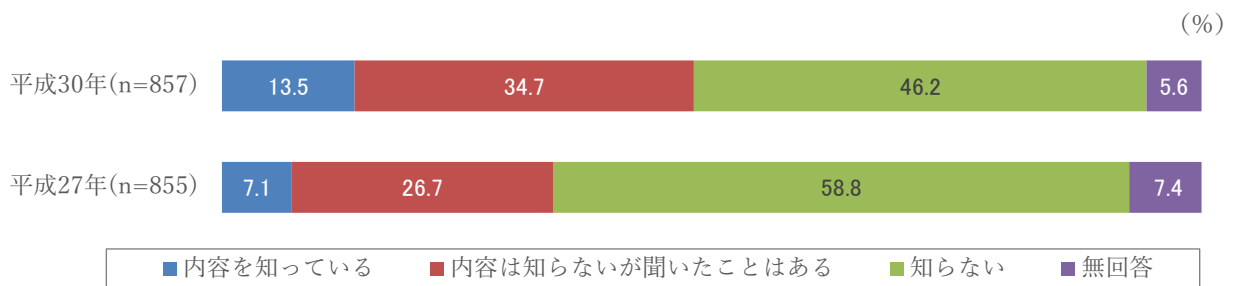
④ ドメスティック・バイオレンス



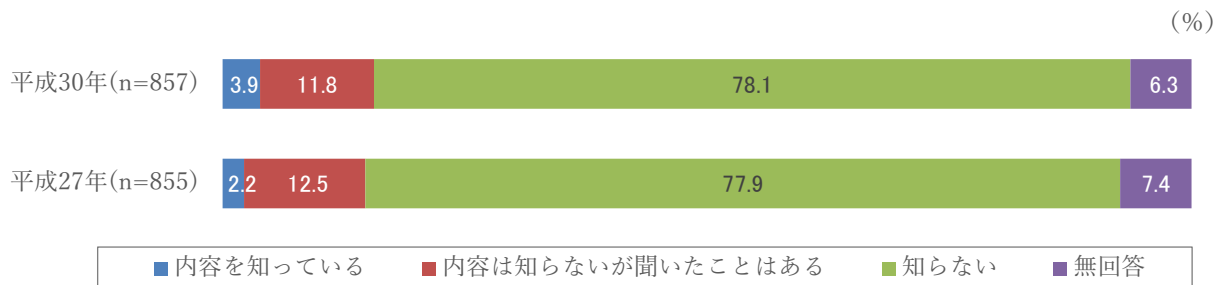
⑤ ポジティブ・アクション



⑥ ダイバーシティ



⑦ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



男女共同参画社会に関する市民意識調査

報告書（概要版）

平成 31 年 2 月

編集・発行 那須塩原市 企画部 市民協働推進課

〒 3 2 5 - 8 5 0 1 栃木県那須塩原市共墾社 1 0 8 番地 2

TEL 0 2 8 7 - 6 2 - 7 0 1 9

FAX 0 2 8 7 - 6 2 - 7 2 2 0